Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お問い合わせ

キヤノン販売　お客様相談センター（全国共通番号）0570－01－9000

受付時間: 平日 9:00～20:00
土･日･祝日 10:00～17:00
（1月1日～1月3日を除く）

お電話がつながりましたら音声ガイダンスに沿って、商品該当番号<71>または「デジタルカメラ」とお話しください。
全国64か所にある最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。
自動車電話･PHSをご使用の方、海外からご利用の方は、043-211-9556をご利用ください。

※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。その場合は案内窓口におつなぎいたします。
※ 音声応答システム･受付時間･該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
※ 消耗品はお買い上げいただいた販売店、お近くのキヤノン製品取り扱い店およびキヤノン販売（株）販売窓口にてご購入ください。 なお、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。

修理サービスご相談窓口

同梱の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社
http://canon.jp/bebit/

キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報
http://www.canon-sales.co.jp/camera/digital/

キヤノン販売株式会社　サービス&サポート
http://canon.jp/support/

Canon Image Gateway
http://www.imagegateway.net/

CDI-J047-010　　XX02NiX

Canon　キヤノンデジタルカメラ　PowerShot S30/S40　ユーザーガイド

CDI-J047

Canon

キヤノンデジタルカメラ

PowerShot S30
PowerShot S40

DIGITAL CAMERA

ユーザーガイド



操作の流れと参照するガイド

本書
カメラで撮影する

ソフトウェアクイックガイド
ソフトウェアをインストールする

ソフトウェアクイックガイド
カメラとコンピューターを接続する

ソフトウェアクイックガイド
画像をコンピューターに取り込む

- 本書はPowerShot S30とPowerShot S40に共通です。
- まず最初に表紙裏面の「ご注意」をお読みください。
- 各プリンターに同梱されている取扱説明書もお読みください。

Exif Print
DPOF
DIRECT PRINT
BUBBLE JET DIRECT

ご注意

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

カメラをお使いになる前に、必ず本書の「ご使用の前に(p. 4)」をお読みください。

日付/時刻用バッテリーの充電について

- カメラには、日付/時刻などの設定を保持するための充電型リチウム電池が内蔵されており、バッテリーを入れたときに充電されます。ご購入時に4時間程度、カメラにバッテリーを入れておくか、またはACアダプターキット ACK700(別売)を使用し充電してください。電源が入っていなくても充電できます。
- 電源を入れたときに、日付/時刻設定画面が表示された場合は、内蔵の充電型リチウム電池の容量がなくなっています。上記の方法で充電してください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーガイド(本書)に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

本文中のマークについて

- 操作に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。
- 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。
- カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

ご使用の前に

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。

万一、このカメラやCFカードなどの不具合により、画像の記録やコンピューターへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障･不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラ、バッテリーチャージャーおよび別売のコンパクトパワーアダプターを指します。

⚠ 警告	この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
⚠ 注意	この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

⚠ 警　告

- カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- 本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってストラップ を首に巻き付けると、窒息することがあります。
- 本機器を分解、改造しないでください。高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
- 落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。
  万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。火災の原因となります。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。漏電して、火災、感電の原因になります。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。

- 本機器専用以外の電源は使用しないでください。発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

- バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。また、水の中に入れたりしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因になります。

- バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

- バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因になります。

- キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「＋」と「－」の端子を接触（ショート）させないでください。発熱し、やけど、けがの原因となります。持ち運びや保存の際は、必ず付属の専用のバッテリーカバーを付けてください。

- バッテリーを廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

- バッテリーパック NB-2Lを使用してください。それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- バッテリーパック NB-2Lを充電する場合は、指定されたバッテリーチャージャーを使用してください。それ以外のものを使用すると、発熱、変形して、火災、感電の原因となります。

- バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後使用しないときはカメラと電源コンセントの両方から外してください。長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。他の製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。

- バッテリーチャージャーの出力端子は常にきれいにし、その上に金属類を置かないでください。火災の原因となることがあります。

⚠ 注　意

- 直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となったり、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。

- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電、故障の原因になることがあります。

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。けがや本体の故障の原因となることがあります。

- ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因になることがあります。

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。

カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

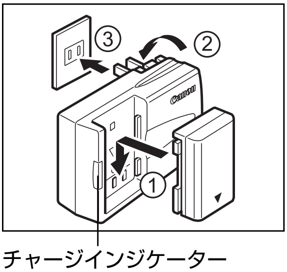
■結露が発生したときは

故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。

CFカード、バッテリーまたは家庭用電源をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

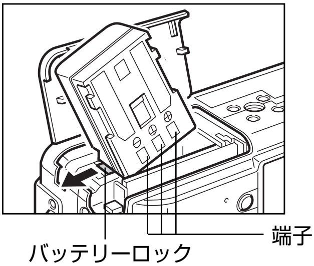
クイックスタート

1 バッテリーを充電する ➔ p. 15



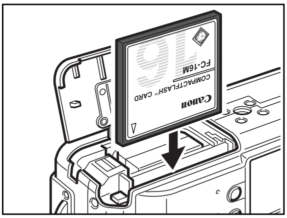
バッテリーチャージャーで充電します。チャージインジケーターが橙点灯から緑点灯に変わったら、充電完了です。

2 バッテリーを入れる ➔ p. 17

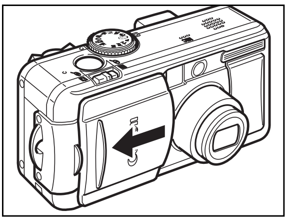


CF カードスロット/ バッテリーカバーを開き、バッテリーロックを押しながら、バッテリーを入れます。

3 CFカードを入れる ➔ p. 22



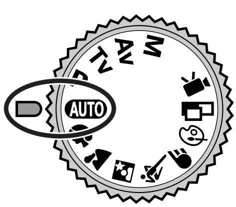
4 レンズカバーを開く ➔ p. 28



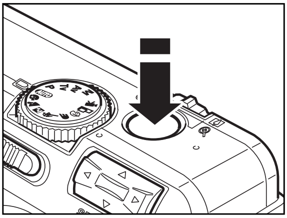
電源が入り、撮影モードになります。

- 日付/時刻の設定画面が表示されたときは、日付/時刻を設定してください。➔ p. 25

5 モードダイヤルを AUTO にする ➔ p. 46



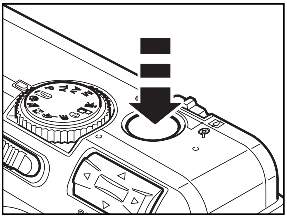
6



ピントを合わせる ➔ p. 35

被写体にカメラを向け、シャッターボタンを軽く押します。撮影準備が完了すると電子音が2回鳴ります。

7



撮影する ➔ p. 35

さらにシャッターボタンを押します。撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。

8



撮影した画像を見る ➔ p. 48

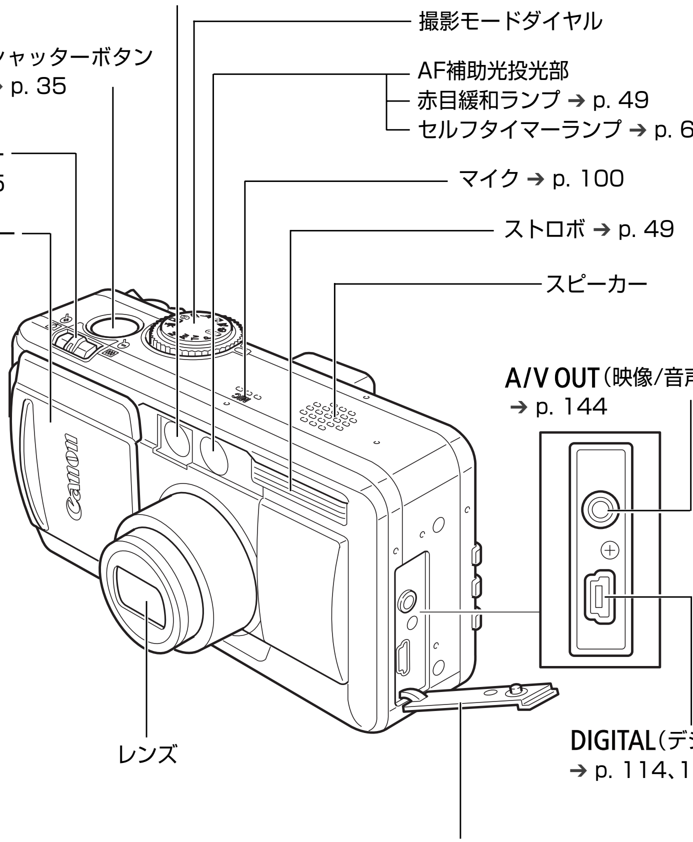
撮影した画像は、液晶モニターに約2秒表示されます。シャッターボタンを押し続けるか、画像が表示されている間に、マルチコントローラーの**SET**を押すと、シャッターボタンを離しても撮影画像を表示し続けます。

表示画像をすぐに消去する

1. 画像の表示中に🗑ボタンを押す
2. [消去]が選択されていることを確認し、**SET**を押す



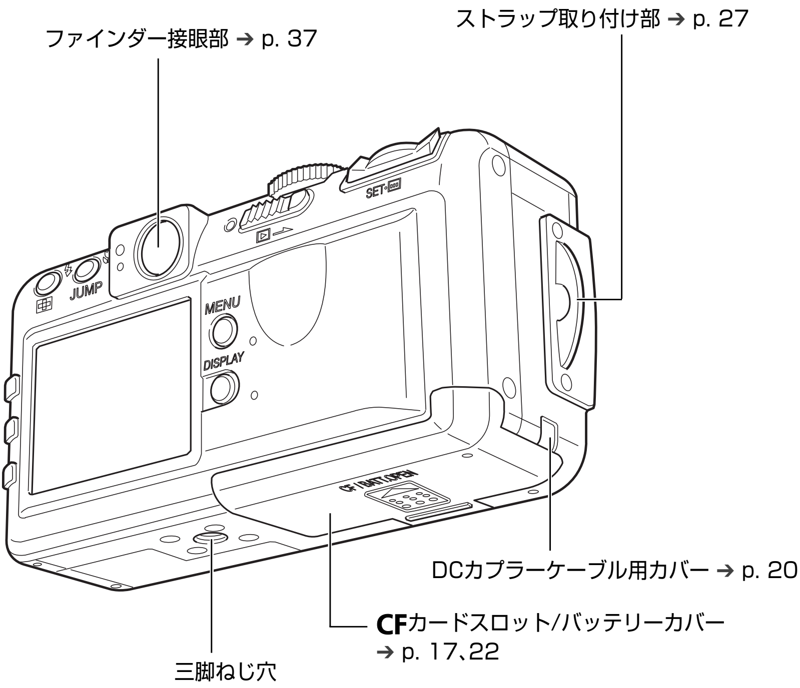
前面



* カメラにコンピューター、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下の通りです。

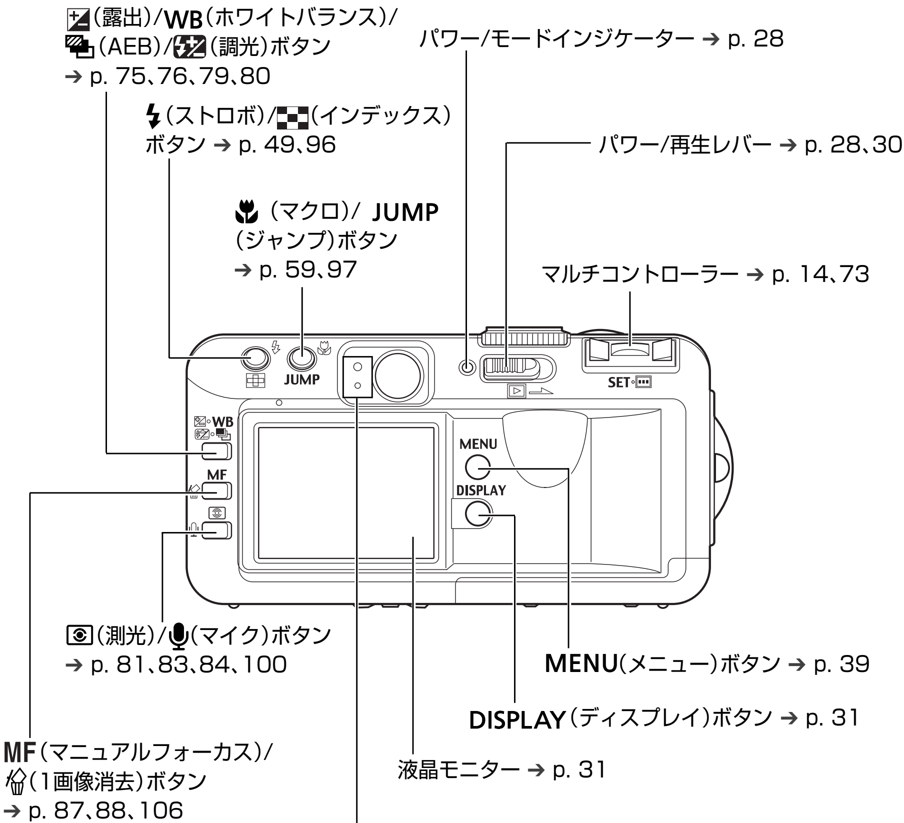
コンピューター：USBインターフェースケーブル IFC-300PCU（カメラに同梱）
カメラダイレクト対応プリンター（別売）：ダイレクトインターフェースケーブル DIF-100（カメラダイレクト対応プリンターに同梱）
カメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）：ダイレクトインターフェースケーブル（BJプリンタに同梱）

背面/底面



ファインダー接眼部 ➔ p. 37
ストラップ取り付け部 ➔ p. 27
JUMP
MENU
DISPLAY
SET
CF / BATT.OPEN
DCカプラーケーブル用カバー ➔ p. 20
CFカードスロット/バッテリーカバー
➔ p. 17、22
三脚ねじ穴

操作部



●インジケーター(上)

シャッターボタンを押したとき、または以下の動作中にインジケーターが点灯、点滅します。

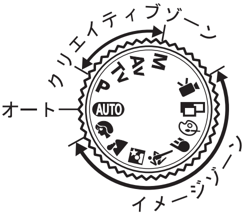
・緑点灯: 撮影準備完了/通信準備完了(コンピューター接続時)
・緑点滅: カメラ起動中/CFカードへ記録中/CFカードからの読み出し中/CFカードからの消去中/データ転送中(コンピューター接続時)
・橙点灯: 撮影準備完了(ストロボ発光)
・橙点滅: 撮影準備完了(手ブレ警告)

●インジケーター(下)

・黄点灯: マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
・黄点滅: ピントが合いにくいとき(黄点滅でもシャッターは押せますが、マニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください ➔ p. 88)

撮影モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。



● AUTO ：オート ➔ p. 46
カメラまかせの撮影ができます。

●イメージゾーン
被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影ができます。

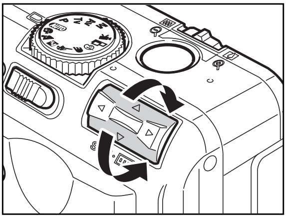
：ポートレート ➔ p. 51
：風景 ➔ p. 51
：夜景 ➔ p. 52
：高速シャッター ➔ p. 52
：スローシャッター ➔ p. 53
：色効果 ➔ p. 54
：スティッチアシスト ➔ p. 55
：動画 ➔ p. 58

●クリエイティブゾーン
露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P ：プログラムAE ➔ p. 67
Tv ：シャッター速度優先AE ➔ p. 68
Av ：絞り優先AE ➔ p. 70
M ：マニュアル露出 ➔ p. 72

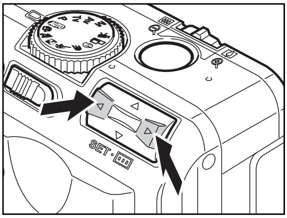
マルチコントローラー

画面上の表示や画像、メニューを選んだり、決定するときに使います。



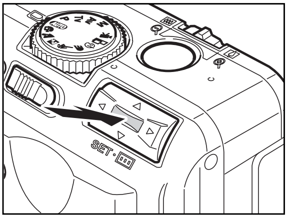
画面上のカーソルを上下に移動します。

本書では、「マルチコントローラーの▲▼で選ぶ」と表記しています。



画面上のカーソルを左右に移動します。

本書では、「マルチコントローラーの◀▶で選ぶ」と表記しています。



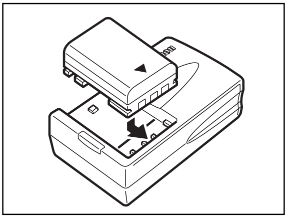
設定内容を決定したり、AF枠を選びます。

本書では、「SET を押す」、「⊡ を押す」と表記しています。

バッテリーを充電する

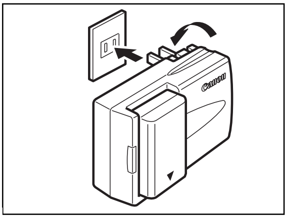
はじめてお使いになるときや、「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されたときは、次の方法でバッテリーを充電してください。

1



バッテリーチャージャーの線にバッテリーの先端を合わせて、矢印の方向に差し込む

2



バッテリーチャージャーの電源プラグを引き出し、コンセントに差し込む

- 充電中はチャージインジケーターが橙色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。
- 充電終了後、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り出します。

- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

- このバッテリーは、リチウムイオン電池を使用しておりますので、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できます。
- 完全に放電した状態から、フル充電になるまでの時間は、約８０分です（当社測定基準による）。5～40℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- バッテリーチャージャーを使用中、音がすることがありますが、故障ではありません。

取り扱いについて

- バッテリー、カメラの ⊕ Ⓣ ⊖ の端子は常にきれいにしておいてください。
  汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、ティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。
- テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- バッテリーパック NB-2L以外のバッテリーは充電しないでください。
- バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。
  お使いにならないときは、専用カバーを付けて室温（30℃以下）の涼しいところで保管してください。再びお使いになるときには、充電してからお使いください。
- 充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日または前日に充電することをおすすめします。
- フル充電の状態で長期間（1年くらい）保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、カメラでバッテリーを使い切ってから室温（30℃以下）の涼しいところで保管することをおすすめします。また長期間使用しないときは、1年に1回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電源を入れていると、機能を使わなくてもバッテリーは消耗します。こまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。
- バッテリーは、0～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには、10～30℃で使用することをおすすめします。スキー場などの寒冷地では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなります。
- 規定の充電をしたにも関わらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

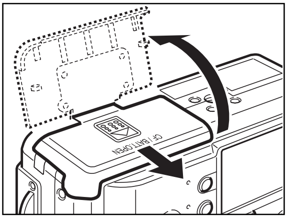
バッテリーを入れる

同梱のバッテリーパック NB-2Lをカメラに入れます。長時間お使いになるときは、家庭用電源をご使用ください。➔ p. 20

1 電源を切る ➔ p. 28、30

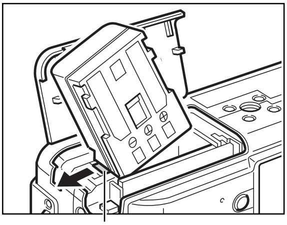
- パワー/モードインジケーターが消えているのを確認してください。

2



CFカードスロット/バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

3

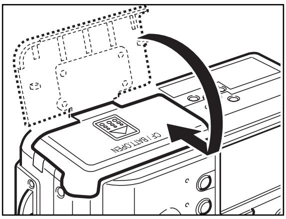


バッテリーロック

バッテリーロックを矢印の方向に押しながらバッテリーがロックされるまで押し込む

- バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックを押して取り出します。

4



CFカードスロット/バッテリーカバーを倒して元の位置に戻す

- はじめてお使いになるときはバッテリーを充電してください。➔ p. 15
- ファインダー左上のインジケーターが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/ 読み出し中/ 消去中、またはデータ転送中です。カメラの電源を切ったり、**CF**カードスロット/バッテリーカバーを開けないでください。
- カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。

バッテリー残量について

バッテリーの残量が低下すると、以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

	バッテリー残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。液晶モニターが消えているときは、DISPLAY 、 、 、 ボタンを押すと表示されます。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少なく、動作不能です。直ちにバッテリーを交換してください。

バッテリー性能について(バッテリーパック NB-2L (フル充電))

	撮影画像数		**再生時間**
	液晶モニター表示時	液晶モニター非表示時	
PowerShot S30	約160画像	約390画像	約150分
PowerShot S40	約180画像	約420画像	約150分

＊ 上記データは当社測定条件によるもので、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
＊ 動画データは除きます。
＊ 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリー残量低下アイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影　：常温(23℃)、20秒間隔でワイド端とテレ端撮影を交互に繰り返し、4回に1回ストロボ使用、8回に1回電源を切/入操作、CFカード使用

再生　：常温(23℃)、1画像あたり5秒間隔で連続再生、CFカード使用

Li-ion

・この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
・この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・交換後不要になった電池、及び使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに関しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
・リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。
　製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
　（社）電池工業会 小型二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

*（社）電池工業会ホームページ　http://www.baj.or.jp/
　電話番号　03-3434-0261

リサイクル時のご注意

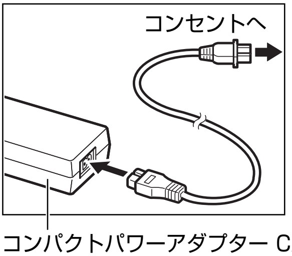
・電池を分解しないでください。

家庭用電源を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、コンピューターやプリンターと接続するときは、ACアダプターキット ACK700(別売)*の利用をおすすめします。

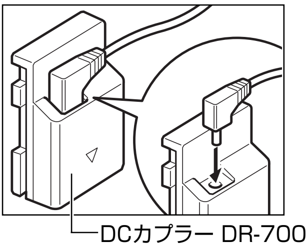
* コンパクトパワーアダプター CA-PS700と DCカプラー DR-700、電源ケーブルが入っています。

1



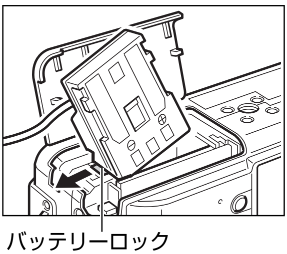
コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

2



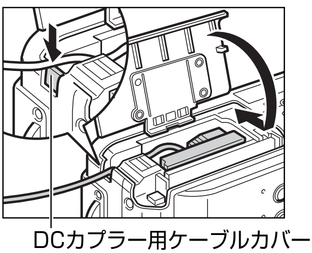
DCカプラー DR-700の端子にコンパクトパワーアダプターのケーブルを接続する

3



CFカードスロット/バッテリーカバーを開き、DCカプラーを、ロックされるまで押し込む

4



ケーブルでDCカプラーケーブル用カバーを押しながら、CFカードスロット/バッテリーカバーを閉じる

- 使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

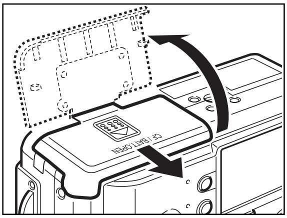
● コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切って(p. 28、30)から行ってください。
● ACアダプターキット ACK700以外をお使いになると、カメラやACアダプターキットの故障の原因となることがあります。

CFカードを入れる

1 電源を切る ➔ p. 28、30

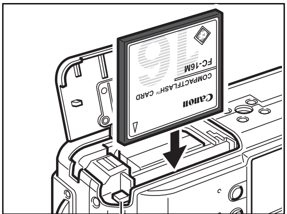
- パワー/モードインジケーターが消えているのを確認してください。

2



CFカードスロット/バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

3



CFカード取り出しボタン

ラベル面を手前にして、CFカードを差し込む

- CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んでください。
- CFカードを取り出すときは、このボタンを押して取り出します。

- ファインダー横のインジケーターが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - カメラの電源を切ったり、CFカードスロット/バッテリーカバーを開ける。
  - CFカードを取り出す。
- 電源が入っているときは、絶対にCFカードスロット/バッテリーカバーを開けないでください。
- 他社のカメラや、アプリケーションソフトウェアで編集したCFカードを使用すると、誤動作する恐れがありますのでご注意ください。

CFカードの種類と記録画像数の目安

			FC-16M	FC-32M	FC-64M	FC-128M
L（ラージ）	PowerShot S30 2048×1536画素	[スーパーファイン]	8	18	38	76
		[ファイン]	16	33	68	137
		[ノーマル]	32	68	136	274
	PowerShot S40 2272×1704画素	[スーパーファイン]	7	14	30	61
		[ファイン]	13	27	54	110
		[ノーマル]	26	54	110	220
M 1（ミドル 1）	1600×1200画素	[スーパーファイン]	14	30	61	123
		[ファイン]	26	54	109	219
		[ノーマル]	52	108	217	435
M 2（ミドル 2）	1024×768画素	[スーパーファイン]	25	53	107	215
		[ファイン]	46	94	189	379
		[ノーマル]	84	174	349	700
S（スモール）	640×480画素	[スーパーファイン]	58	120	241	483
		[ファイン]	94	196	394	789
		[ノーマル]	165	337	677	1355
RAW	PowerShot S30 2048×1536画素		5	11	24	49
	PowerShot S40 2272×1704画素		4	10	20	42
動画	320×240画素	[320]	61秒	124秒	250秒	502秒
	160×120画素	[160]	223秒	457秒	916秒	1834秒

- この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。
- 動画の1回の最長撮影時間は、[320]：約30秒、[160]：約120秒です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最長時間です。
- スーパーファイン、ファイン、ノーマルは圧縮率を表します。

取り扱いについて

- CFカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- CFカードを分解したり、改造しないでください。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、CFカードに水滴が付き（結露）、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。

  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- CFカードを保管するときは、専用のケースに入れてください。
- CFカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  - ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  - 高温多湿の場所

マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

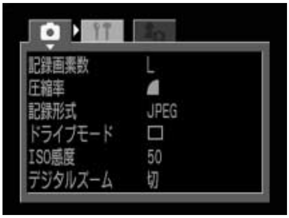
日付/時刻を設定する

はじめてカメラの電源を入れたとき、または、内蔵の充電型リチウム電池の容量がなくなったときは、日付/時刻の設定画面が表示されます。手順5から操作してください。

1 電源を入れる → p. 28

2 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。



これは [(撮影)] メニューです。

3 マルチコントローラーの▶で[(設定)]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



4 マルチコントローラーの▲▼で[日付/時刻]を選び、SETを押す

5 日付と時刻を設定する

- マルチコントローラーの◀▶で、設定したい項目を選びます。
- マルチコントローラーの▲▼で、設定内容を変更します。
- 2030年まで設定できます。



6 SETを押す

- 設定後、MENUボタンを押して操作を終了します。

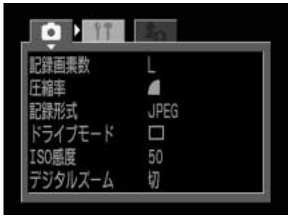
- バッテリーを取り出してから約3週間経過すると、設定した日付/時刻がリセットされる場合があります。再度、設定し直してください。

言語を設定する

1 電源を入れる → p. 28

2 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。



これは［ (撮影)］メニューです。

3 マルチコントローラーの►で[(設定)]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



4 マルチコントローラーの▲▼で[言語]を選び、SETを押す

5 マルチコントローラーの◄►で言語を選ぶ

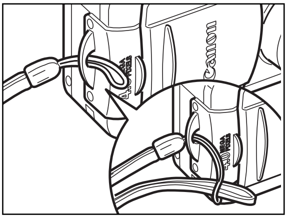


6 SETを押す

- 設定後、MENUボタンを押して操作を終了します。

- カメラが再生モードのときは、SETを押しながらJUMPボタンを押しても、言語を変更することができます。(別売のカードフォトプリンター CP-10およびBJプリンタ(ダイレクトプリント対応)接続時は設定できません。)

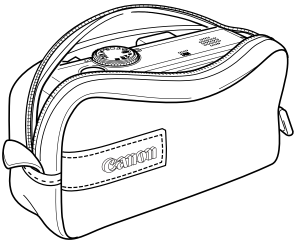
ストラップを取り付ける



ストラップの細い紐を、ストラップ取り付け部に通し、細い紐にストラップを通します。

- カメラをストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

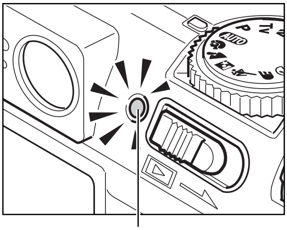
ソフトケース（別売）を使う



ソフトケースには、カメラ、バッテリー、CFカードを収納してお使いいただけます。

電源を入れる/切る

カメラに電源が入っていると、パワー/モードインジケーターが点灯します。このインジケーターでカメラの状態が分かります。



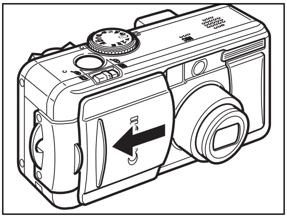
パワー/モードインジケーター

橙点灯　：撮影モード
緑点灯　：再生/プリンター接続モード*
黄点灯　：コンピューター接続モード*
消灯　　：電源切

* プリンター接続モードについては「カードフォトプリンター CP-10(別売)でプリント」(p. 114)または、「BJプリンタ(別売)でプリント」(p. 123)をご覧ください。コンピューター接続モードについてはカメラに同梱されているソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

撮影モードで電源を入れる/切る

1



レンズカバーを開く

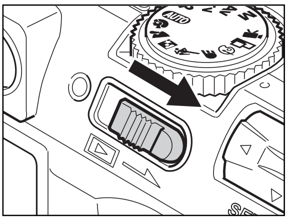
- 電源が入り、撮影モードになります。
- パワー/モードインジケーターが橙色に点灯します。

レンズカバーを閉じる

- 電源が切れます。

再生モードで電源を入れる/切る

1



液晶モニターに画像が表示されるまで、パワー/再生レバーを右端までスライドして離す

- 電源が入り、再生モードになります。
- パワー/モードインジケーターが緑色に点灯します。

もう一度パワー/再生レバーを右にスライドする

- 電源が切れます。

- 電源を入れると、起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます。(起動音、起動画面を変更する ➔ 下記、p. 42、p. 141)
- 撮影モード時に液晶モニターが非表示になっているときと、カメラのA/V OUT端子をテレビ等に接続しているときは、起動画面は表示されません。

起動画面と起動音を消すには

🎙ボタンを押しながら、電源を入れます。

節電機能について

カメラには、節電機能が付いています。節電機能を[入]にしていると、次のようなときに電源が切れます。

撮影モード：約3分間、何も操作をしないと電源が切れます。節電機能を[切]にしている場合でも、液晶モニターを表示して、約3分間、何も操作をしないと、液晶モニターは非表示になります。

再生モード：約5分間、何も操作をしないと電源が切れます。

プリンター接続モード：
約5分間、カメラの操作を何もせず、また、プリンターで何もプリントしないと電源が切れます。

コンピューター接続モード：
約5分間、何も操作をしないと、コンピューター画面に警告メッセージが表示されます。さらに1分間何も操作しないとカメラの電源が切れます。ただし、家庭用電源をお使いの場合は節電機能は働きません。

- 節電機能が働いたとき
  撮影モード：シャッターボタンを半押しすると復帰します。
  再生/プリンター接続/コンピューター接続モード：
  再度、パワー/再生レバーを右にスライドし、電源を入れます。
- 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。➔ p. 101
- 設定メニューで節電機能を無効にすることもできます。➔ p. 140

撮影/再生を切り換える

撮影モードと再生モードを素早く切り換えることができます。撮影直後に画像を確認したり、消去したりすることができ、またすぐに撮影に戻ることができるので便利です。

● 撮影モードのとき

1 パワー/再生レバーをスライドする ➔ p. 28

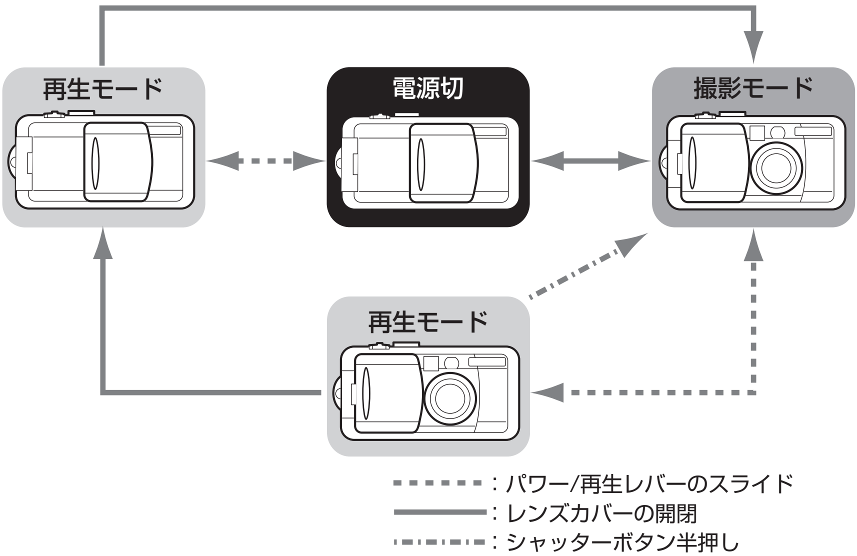
- 再生モードになります。このときレンズは収納されません。
- もう一度、再生レバーをスライドするか、シャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。

● 再生モード(レンズカバーは閉じている状態)のとき

1 レンズカバーを開く ➔ p. 28

- 撮影モードになります。

電源の入/切、撮影/再生モードの相互関係について



液晶モニターの表示を切り換える

画像を確認しながら撮影したり、撮影した画像を再生するとき、メニュー操作を行うときは液晶モニターを使います。DISPLAYボタンを押すと、液晶モニター表示の切り換えができます。

● 撮影モードのとき

・DISPLAYボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

液晶モニター表示（情報表示なし）→液晶モニター表示（情報表示あり）→液晶モニター非表示

- 液晶モニター表示/非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、「バッテリーを交換してください。」というメッセージが表示された場合は、次回電源を入れたときに液晶モニターがつかないことがあります。
- 液晶モニター表示（情報表示なし）や、液晶モニター非表示でも、撮影モードを変更したときは、情報が約6秒間表示されます。
- 撮影モードダイヤルを や 、 にしたときは、設定に関わらず、液晶モニターは表示されます。

- 光量不足のときは、撮影準備完了時に液晶モニター中央に （手ブレ警告）が表示されます。ストロボをオンにするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

● 再生モードのとき

・パワー/再生レバーを右にスライドして離すと、液晶モニターがつきます。

・DISPLAYボタンを押すたびに、情報表示の切り換えができます。

シングル再生　　：簡易表示→詳細表示→非表示

インデックス再生：簡易表示↔非表示

液晶モニターに表示される情報

撮影や再生時、カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影日時などが表示されます。

● 撮影モードのとき



情報表示のときは、次の情報を表示します。

AUTO ( ) P Tv Av M	撮影モード	p. 13
	ストロボ	p. 49
	ドライブモード	p. 60/61
	測光方式	p. 84
AWB	ホワイトバランス(WB)	p. 76
-2 ··· ±0 ··· +2	露出補正	p. 75
	AEB撮影	p. 79
	ストロボ調光補正	p. 80
	圧縮率	p. 63
L M1 M2 S 320 160	記録画素数	p. 63
RAW	記録形式	p. 66
	AEロック/FEロック	p. 81/83
●(赤)	動画撮影	p. 58
	マクロモード	p. 59
MF	マニュアルフォーカス	p. 87/88
(PowerShot S30) ×3.8 ×4.8 ×6.0 ×7.4 ×10 (PowerShot S40) ×4.3 ×5.3 ×6.7 ×8.2 ×11	デジタルズーム倍率*	p. 62
	手ブレ警告	p. 31
	バッテリー残量低下	p. 18

- のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。
- これら以外に左の図のように、メッセージ、AF枠、スポット測光枠、シャッター速度、絞り数値、MFインジケーター(マニュアルフォーカス時)が表示されます。

* 光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます。

● 再生モードのとき



簡易表示では、次の情報を表示します。

S	圧縮率	p. 63
L M1 M2 S	記録画素数	p. 63
RAW	記録形式	p. 66
	WAVE形式の音声メモ	p. 100
AVI	動画	p. 98
	プロテクト情報	p. 105



詳細表示では、さらに次の情報を表示します。

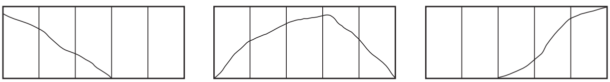
AUTO ( ) P Tv Av M	撮影モード	p. 13
320 160	記録画素数	p. 63
-2 ··· ±0 ··· +2	露出補正	p. 75
-2 ··· ±0 ··· +2	ストロボ調光補正	p. 80
AWB	ホワイトバランス	p. 76
	測光方式	p. 84
	マクロモード	p. 59
MF	マニュアルフォーカス	p. 87/88

- これら以外に左の図のように、ISO感度、シャッター速度、絞り数値、ヒストグラム、高輝度警告が表示されます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。
暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときは、マイナス側に補正して撮影します。➔ p. 75

ヒストグラム例



暗い画像　普通の明るさの画像　明るい画像

高輝度警告について

情報表示にしたとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。
ヒストグラムを参考にマイナス補正（p. 75）し、再撮影することをおすすめします。

液晶モニターの表示を切り換える(つづき)

画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

♪?	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルが付いています。
⚠	DCFの規格に対応していないJPEGファイルです。
?	認識できない画像データです。

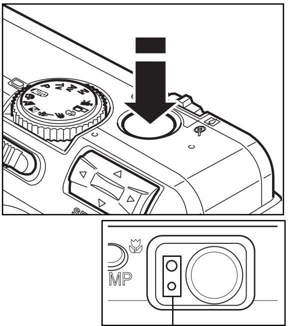
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

撮影時のご注意

極端に明るい被写体(一部に高輝度な部分を含む被写体)を撮影すると、液晶モニター上に、縦に赤い帯が表示されることがあります。動画には、この帯が記録されますが、静止画には記録されません。これは、CCD特有のスミア現象で、カメラの故障ではありません。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは、半押しと全押しの 2 段階で動作します。



インジケーター

● 半押しー浅く押したとき

露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。

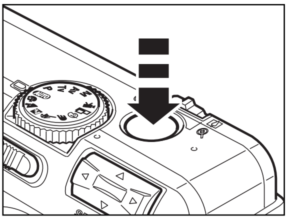
- インジケーターで設定状態がわかります。
  - 緑点灯：撮影準備完了(電子音が2回鳴ります。)
  - 橙点灯：ストロボ発光
  - 橙点滅：手ブレ警告/露出不足
  - 黄点灯：マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
  - 黄点滅：ピントが合いにくいとき*(電子音が1回鳴ります。)

  * 黄点滅したときは、フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。➔ p. 88



AF枠

- ＡＦ枠は、次のようになります。(液晶モニターがついているとき)
  - 緑色：撮影準備完了
  - 黄色：ピントが合いにくいとき



● 全押しー深く押したとき

撮影します。

- CFカードに記録中はインジケーターが緑色に点滅します。
- 撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。

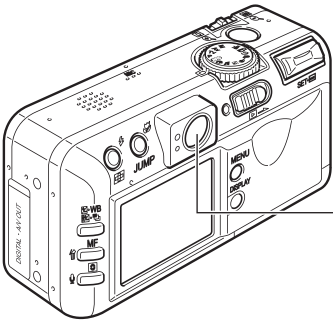
シャッターボタンの押し方(つづき)

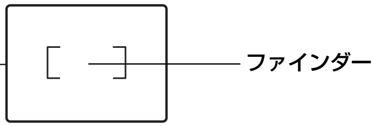
- シャッターボタンを半押ししたときに、橙色、または黄色のインジケーターが点滅していても、そのまま全押しして撮影できます。
- 撮影した画像は、いったん内部メモリーに保存され、順次CFカードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがある間は、撮影後、すぐに次の撮影ができます。
- 電子音、シャッター音の[入/切]は、メニューで設定できます。➔ p. 139
- シャッター音を[切]にしていても、電子音を[入]に設定している場合は、全押しするとピッという電子音が1回鳴ります。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。

ファインダーを使って撮影する

光学式ファインダーを装備しています。

- 中央のオートフォーカス範囲に被写体を入れて撮影してください。
- ファインダーの視野率*は、約82%です。
  - * 実際に撮影される範囲に対して、ファインダーで確認できる範囲の比率です。





パララックスについて

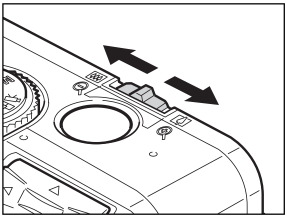
ファインダーを使って撮影するときは、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ(パララックス)が生じます。特に被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。

AF枠を選択しているとき

液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。
AF枠の選択方法は、p. 73 をご覧ください。

ズーム（画角）を調節する

35mmフィルム換算で、35～105mmの範囲で画角を調節できます。



望遠/広角

ズームレバーを[🌲]側にスライドすると、被写体を大きく写します（望遠）。

[🌲🌲🌲] 側にスライドすると、被写体を小さく写します（広角）。



画面例：PowerShot S40

デジタルズーム

光学ズームと合わせて、PowerShot S30では最大約10倍に、PowerShot S40では最大約11倍に、拡大して撮影できます。➔ p. 62

- 液晶モニター非表示時、または[連続撮影]、[動画]では、デジタルズームは使用できません。

- デジタルズームでは、拡大するほど画質は粗くなります。

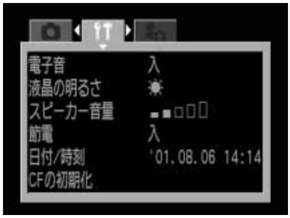
メニューの選択と設定のしかた

撮影時や再生時の設定や、日付/ 時刻、電子音などのカメラの設定は、メニューを使って操作します。液晶モニターを見ながら、次のように操作してください。

1 MENUボタンを押す

- カメラが撮影モードのときは[(撮影)]メニューが表示され、再生モードのときは[(再生)]メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶でメニューを切り換える



- メニューは次のように切り換わります。
  [(撮影)]または[(再生)]↔[(設定)]↔[(マイカメラ)]
- JUMPボタンでも、同様にメニューの切り換えができます。

3 マルチコントローラーの▲▼でメニュー項目を選ぶ



4 マルチコントローラーの◀▶で設定したい内容を選ぶ



- 「...」のある項目では、SETを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度SETを押して設定内容を確定します。

5 MENUボタンを押す

- MENUボタンを押すとメニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。

- 別売のウォータープルーフケース WP-DC300をお使いの場合は、MFボタンを押しながらマルチコントローラーの◀▶でメニュー項目を選びます。

メニュー設定項目と初期設定

各メニューで設定できる項目と初期設定は、次の通りです。

	メニュー項目		設定内容	参照先
撮影メニュー(赤)	記録画素数(静止画)	PowerShot S30	**L** 2048×1536* / **M1** 1600×1200 / **M2** 1024× 768 / **S** 640× 480	p. 63
		PowerShot S40	**L** 2272×1704* / **M1** 1600×1200 / **M2** 1024× 768 / **S** 640× 480	p. 63
	記録画素数(動画)		320 320×240* / 160 160×120	p. 63
	圧縮率		S スーパーファイン / ファイン* / ノーマル	p. 63
	記録形式		JPEG* / RAW	p. 66
	ドライブモード		□*/連続撮影/高速連続撮影/セルフタイマー10秒/セルフタイマー2秒	p. 60/61
	ISO感度		50* / 100 / 200 / 400 / 800 / AUTO (ISO 800はS30のみ設定可能)	p. 89
	デジタルズーム		入 / 切*	p. 62
	スポット測光枠		中央固定*/AF枠連動	p. 84
	撮影の確認		切 / 2秒* / 10秒	p. 48
	番号リセット機能		入 / 切*	p. 91
	コントラスト		− / 0* / +	p. 89
	シャープネス		− / 0* / +	p. 89
	色の濃さ		− / 0* / +	p. 89
再生メニュー(青)	プロテクト		プロテクトを設定します。	p.105
	回転		回転して表示します。	p. 99
	全消去		すべての画像を消去します。	p.107
	スライドショー		自動再生します。	p.101
	プリント指定		プリント指定をします。	p.109
	送信指定		送信指定をします。	p.132

メニュー項目		設定内容	参照先
設定メニュー（黄）	電子音	入* / 切	p.139
	液晶の明るさ	標準 / 明るい*	p.139
	スピーカー音量	切 / 1 / 2* / 3 / 4 / 5	p.139
	節電	入* / 切	p.140
	日付/時刻	日付/時刻を設定します。	p. 25
	CFの初期化	CFカードを初期化します。	p.108
	言語	English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語*	p. 26
	ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.140
マイカメラメニュー（青）	起動画面	/ 1*/ /	p.42/141
	起動音	/ 1*/ /	p.42/141
	シャッター音	/ 1*/ /	p.42/141
	操作音	/ 1*/ /	p.42/142
	セルフタイマー音	/ 1*/ /	p.42/142

*初期設定

・撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。

・マイカメラメニューの設定内容「」と「」には、コンピューターと接続して好きな画面や音を登録できます。詳しくはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

・[日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます。→ p. 143

カメラをカスタマイズする（マイカメラ機能）

カメラの起動画面や起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ3種類のなかから選べます。

[例：起動画面]



[1]



[2]



[3]

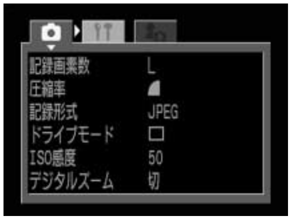
マイカメラコンテンツの[2]には、SF関連、[3]には動物（鳥と犬）関連のコンテンツが入っています。

マイカメラコンテンツを変更する

1 電源を入れる → p. 28

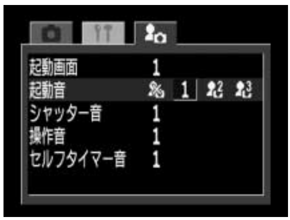
2 MENUボタンを押す

- [（撮影）]メニューまたは[（再生）]メニューが表示されます。



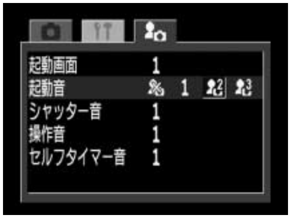
3 マルチコントローラーの▶で[（マイカメラ）]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



4 マルチコントローラーの▲▼でメニュー項目を選ぶ

5 マルチコントローラーの◀▶で設定したいコンテンツを選ぶ



6 MENUボタンを押す

- MENUボタンを押すとメニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。

- [起動音]、[シャッター音]、[操作音]、[セルフタイマー音]を[(切)]に設定していても、[(設定)]メニューの[電子音]が[入]になっているときは、電子音が鳴ります。➔ p. 142

マイカメラコンテンツを登録する

各コンテンツの[ ][ ]には、同梱のソフトウェアを使って、お好きなコンテンツをカメラに登録できます。またCanon Image Gateway (オンラインフォトサービス)から、同梱のソフトウェアを通じて、コンテンツをお使いのコンピューターにダウンロードし、それをカメラに登録することもできます。

マイカメラコンテンツのファイルフォーマット

● **起動画面**

- ・記録画像フォーマット　JPEG　(ベースライン JPEG)
- ・サンプリングレート　4:1:1
- ・画像サイズ　320 X 240画素
- ・ファイル容量　20KB以下

● **起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音**

- ・記録フォーマット　WAVE(モノラル)
- ・標準化ビット　8bit
- ・サンプルリング周波数　11.025kHzまたは8.000kHz
- ・記録時間

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0秒以下	1.3秒以下
シャッター音	0.3秒以下	0.4秒以下
操作音	0.3秒以下	0.4秒以下
セルフタイマー音	2.0秒以下	2.0秒以下

上記フォーマット以外のファイルは、カメラに登録できません。

たとえば、[セルフタイマー音] で、「はい、チーズ!」と登録すると、シャッターが切れる 2 秒前に、撮影者に代わって、カメラが発声します。マイカメラコンテンツを作成して登録し、お好みのカメラを作ることができます。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、同梱のソフトウェアクイックガイド、およびSolution Diskに収められているZoomBrowser EXもしくはImageBrowserソフトウェアガイド(PDFマニュアル)をご覧ください。

Canon Image Gatewayを活用する

このカメラをお買い求めになられた皆さまには、ホームページ「Canon Image Gateway」から、以下のサービスをご利用いただけます。サービスを利用するときは、まず会員登録（オンライン登録：無料）が必要です。登録方法については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

＊インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。

＊プロバイダとの接続料金およびプロバイダのアクセスポイントへの電話料金は別途かかります。

Canon Image Gatewayに接続してできること

●オンラインアルバムサービス

画像をCanon Image Gatewayにアップロードし、ネット上にオリジナルアルバムを作成できます。また、画像に付けたコメントや音声も同時にアップロードすることができますので、個性的なアルバムを作れます。

アップロードした画像は、多彩なレイアウト機能などにより、自分だけのオリジナルアルバムを楽しめます。また、アルバムは、知人（お友達やご家族）にも公開できますので、楽しみ方も倍増です。



●オンラインプリントサービス

オンラインで、アルバムの画像を指定して、高画質プリントサービスに、簡単にプリントを注文することができます。また、アルバムを見たお友達やご家族の人たちも注文することができます。

●マイカメラコンテンツ

カメラ用の起動画面、起動音、操作音、シャッター音、セルフタイマー音（これらを「マイカメラコンテンツ」といいます）をダウンロードできます。Canon Image Gatewayには、多彩なコンテンツが用意されていますので、お好きなものをダウンロードしてください（コンテンツは随時更新されますので、時々確認してみてください。）。ダウンロードしたコンテンツを、カメラに登録することができ、自分だけのオリジナルカメラを楽しめます。



* 上記の画面はWindows用です。ただし、最新の画面表示と異なる場合があります。

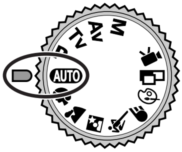
撮影 - カメラまかせの簡単撮影

AUTO オートで撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、カメラまかせの撮影ができます。

1 撮影モードになっていることを確認する → p. 28

2 撮影モードダイヤルを AUTO にする



3 被写体にカメラを向ける

4 ズームレバーで画角（画面内の被写体の大きさ）を決める

5 シャッターボタンを半押しする → p. 35



AF枠

- シャッターボタンを押してピントを合わせます。撮影準備が完了すると、電子音が2回鳴り、ファインダー横のインジケーターが緑色または橙色に点灯します。液晶モニターがついているときは、AF枠が緑色になります。
- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、液晶モニターがついている場合、液晶モニターに表示されます。
- ピントが合いにくいときは、電子音が1回鳴りインジケーターが黄色に点滅します。このときAF枠が黄色になります。

6 シャッターボタンを全押しする → p. 35

- シャッター音が1回鳴り、撮影が完了します。
- 液晶モニターがついている場合、撮影した画像が約2秒表示されます。

- 以下の設定を変更できます。

記録画素数	L(ラージ)*/M1(ミドル1)/M2(ミドル2)/S(スモール)
圧縮率	(スーパーファイン)/(ファイン)/(ノーマル)
ストロボ設定	(赤目緩和オート)*/ (オート)/(オフ)
マクロモード	切*/入
デジタルズーム	入/切*
ドライブモード	*//
撮影の確認	切/2秒*/10秒
番号リセット機能	入/切*

*初期設定

- 撮影後、液晶モニターに撮影画像を表示する時間を変更したり、表示しないように設定することができます。➔ p. 48

撮影直後に画像を確認する

撮影した画像を確認する

撮影直後、シャッターボタンを離しても約2秒間（変更できます ➔ 下記）、撮影した画像を表示しますが、次の方法で確認することもできます。

● シャッターボタンを全押しし続ける

シャッターボタンを全押しし続けている間、液晶モニターに画像を表示できます。

● SETを押す

撮影した画像が表示されている間に**SET**を押すと、シャッターボタンを離しても、画像を表示し続けます。シャッターボタンを半押しにすると解除されます。

- 画像確認中に次のようなことができます。参照先をご覧ください。
  - 画像を消去する ➔ p. 9、106
  - 画像の詳細情報を表示する ➔ p. 31
  - 画像を拡大表示する ➔ p. 95
  - 音声を録音する ➔ p. 100

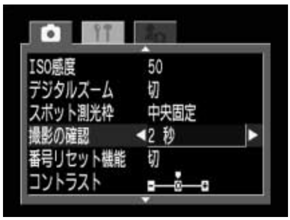
撮影した画像の確認時間を変更する

画像の確認時間を[2秒]から[切]または[10秒]に変更できます。

1 [（撮影）]メニューから[撮影の確認]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

2 確認時間を選び、MENUボタンを押す



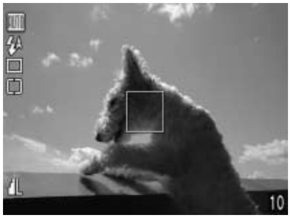
- [切]の場合、画像は表示されません。
- [2秒]または[10秒]の場合、シャッターボタンを離しても、2秒または10秒間、画像を表示します。
- シャッターボタンを全押しし続けると、設定に関わらず画像を表示できます。
- 画像の表示中でも撮影はできます。

ストロボを使って撮る

撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

	赤目緩和オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。 ストロボ発光の際には、常に赤目緩和ランプを発光します。
	オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光します。
	赤目緩和オン	常に赤目緩和ランプとストロボを発光して撮影します。
	オン	常にストロボを発光して撮影します。
	オフ	撮影時にストロボは発光しません。

1 ボタンを押してストロボモードを切り換える



- 液晶モニターに、選択したストロボモードが表示されます。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横のインジケーターが橙色に点灯した場合は、ストロボが発光します。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

ストロボの設定について

撮影モードによって設定できないモードがあります。

		AUTO									P	Tv	Av	M
	赤目緩和オート	○*	○*	○	○*	○	○	○	–	–	○	–	–	–
	オート	○	○	○	○	○*	○	○*	–	–	○	–	–	–
	赤目緩和オン	–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○
	オン	–	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○
	オフ	○	○	○*	○	○	○*	○	○*	○*	○*	○*	○*	○*

*初期設定

○:設定可　△:最初の1画像のみ設定可　–:設定不可

●ＩＳＯ感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。

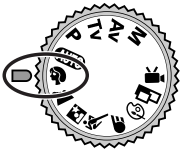
●ストロボ同調最高シャッター速度は1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッター速度を設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。
●ストロボの充電には約１０秒かかる場合があります。充電時間は使用状況やバッテリーの残量などにより変わります。
●**M**のときは、フル発光します。**M**以外のときは、自動調光で発光します。
●**P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。
●ストロボの発光は2回行われ、プリ発光し、続いてメイン発光します。プリ発光(ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光)で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光(ストロボ撮影を行うための発光)に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。

赤目緩和機能について
暗い所でストロボを発光すると、ストロボの光が反射して目が赤く写ることがあります。このようなときは、赤目緩和で撮影してください。
その場合、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」とより効果があります。

ポートレートを撮る

背景をぼかして人物を浮き立たせたいときに使います。

1



撮影モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

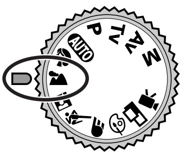
- AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。
- AF枠は、オート選択または、マニュアル選択(中央のみ)が設定できます。➔ p. 73

- 被写体の上半身が、ファインダーまたは液晶モニターいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
- レンズを望遠側にすると、背景をさらにぼかすことができます。

風景を撮る

広がりのある風景を撮影するときに使います。

1



撮影モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

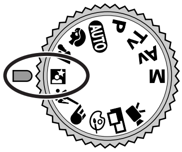
- マクロモード、AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。
- AF枠は、オート選択または、マニュアル選択(中央のみ)が設定できます。➔ p. 73

- ではシャッター速度が遅くなりやすいので、液晶モニター中央に(手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。

夜景を撮る

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影するときに使います。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度で、それぞれをきれいに撮影することができます。

1



撮影モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 46）」と同じです。

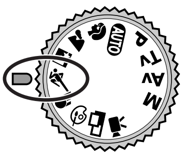
- マクロモード、AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。
- AF枠は、オート選択または、マニュアル選択（中央のみ）が設定できます。➔ p. 73
- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- シャッター速度が遅いので、ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- で日中に撮影すると、AUTOと同じ撮影効果になります。

高速シャッターで撮る

スポーツなど、動きの速い被写体を撮影するときに使います。

1



撮影モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 46）」と同じです。

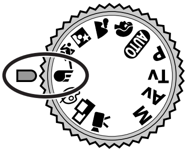
- AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。
- AF枠は、オート選択または、マニュアル選択（中央のみ）が設定できます。➔ p. 73

- 撮影したい被写体が暗い場合は、ノイズが目立つことがあります。

スローシャッターで撮る

動いている被写体をぶれさせたり、川の流れなどを撮影するときに使います。

1



撮影モードダイヤルをにする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

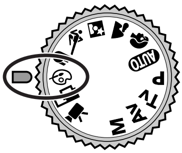
- AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。
- AF枠は、オート選択または、マニュアル選択(中央のみ)が設定できます。➔ p. 73
- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

色効果を変えて撮る

色効果を変えて撮影できます。

	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いで撮影します。
	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いで撮影します。
	セピア	セピア色で撮影します。
	白黒	白黒で撮影します。

1



撮影モードダイヤルをにする

- 液晶モニターに、色効果設定メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶で色効果を選ぶ



3 SETを押す

- SETの代わりに、すぐにシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 撮影する

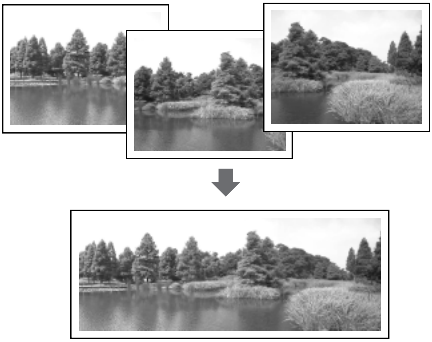
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 46）」と同じです。
- 撮影後、SETを押すと設定メニューが表示され、設定を変更できます。

- AEB撮影、AEロック、FEロック、測光方式、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。
- [（セピア）][（白黒）]を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。
- 色効果設定メニューが表示されているときは、マクロモードの設定を変更できません。
- AF枠は、オート選択です。➔ p. 73

スティッチアシストで撮る

撮影した画像をコンピューターで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。

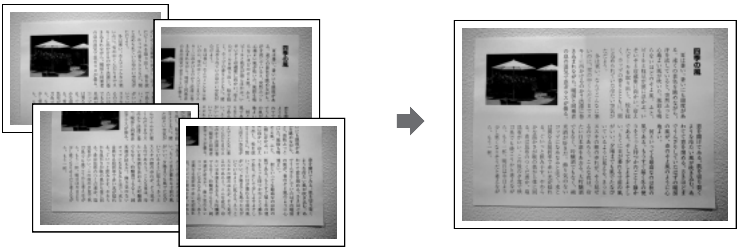
水平方向



垂直方向



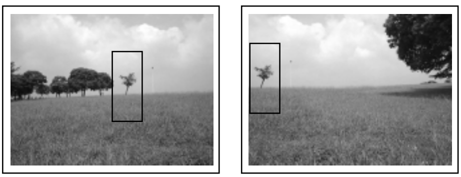
2×2



- コンピューターでの画像合成には、同梱の「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえ方

スティッチは、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。

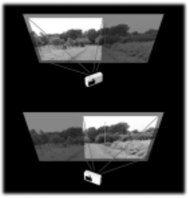


- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30〜50%になるように撮影します。また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。

遠くの風景を撮るとき

下図のように、カメラを中心に回転して撮影します。

横方向:左右に回転

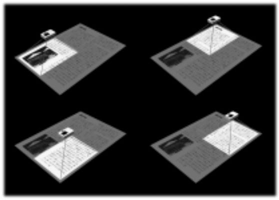


縦方向:上下に回転



至近距離で撮影するとき

カメラをスライド(カメラを被写体に対して平行移動)させせます。

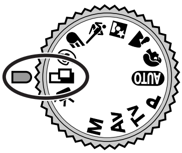


撮影する

スティッチアシストモードには、次の5つの撮影方向があります。

(左→右)	左から右方向へ水平に撮影します。
(右→左)	右から左方向へ水平に撮影します。
(下→上)	下から上へ垂直に撮影します。
(上→下)	上から下へ垂直に撮影します。
(時計回り)	左上を基点に時計回りに撮影します。

1 撮影モードダイヤルをスティッチアシストにする



- 液晶モニターがつきます。

2 マルチコントローラーの◀▶で撮影方向を選び、SETを押す

- SETを押さずに、すぐにシャッターボタンを押して撮影することもできます。



3 最初の画像を撮影する

- 1画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- マルチコントローラーの◀▶を押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。



のとき



のとき

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

- 水平/垂直方向の撮影では、最大26画像まで撮影できます。

6 最後の画像の撮影後、SETを押す

- デジタルズーム、ストロボ（赤目緩和オート、オート、赤目緩和オン）、連続撮影（、）、AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。
- テレビと接続しても、液晶モニターの画像をテレビに表示して撮影することはできません。

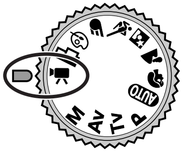
- ズーム（画角）、ストロボ（オン･オフ）、記録画素数、マクロモード、露出、ホワイトバランス*、ストロボ調光補正は、1画像目のみ設定できます。2画像目以降の撮影では、その設定が保持されます。

  * マニュアルホワイトバランスの場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。

動画を撮る

動画を撮影するときに使います。記録画素数は、(撮影)メニューの[記録画素数] で[(320×240(初期設定))]または[(160×120)]を選べます。➔ p. 63

1



撮影モードダイヤルを にする

- 液晶モニターがつき、記録可能時間(秒数)が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする

- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニター右上に赤丸が表示されます。

3 撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする

- 1回の撮影時間(約15フレーム/秒)は、で約30秒*、で約120秒*です。これらの時間が経過するか、またはCFカードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

  * 当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。

- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- ＡＥ、ＡＦ、ホワイトバランス、ズーム(画角)は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 撮影後、ＣＦカードへの記録中はファインダー横のインジケーターが緑色に点滅します。このときは撮影できません。
- デジタルズーム、ストロボ、連続撮影、AEB撮影、ストロボ調光補正、AEロック、FEロック、測光方式、AFモード(シングル)、圧縮率、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。

- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。

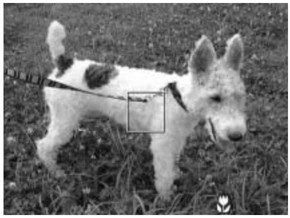
- 動画ファイル(ファイル形式:AVI、圧縮形式:Motion JPEG)をコンピューターで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です。

🌷 至近距離で撮る

レンズ前面から被写体までの距離が10cm(ワイド端)/30cm(テレ端)〜80cmのときは、マクロモードで撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 🌷ボタンを押す



- 液晶モニターに、🌷が表示されます。
- 再度🌷ボタンを押すと、マクロモードを解除できます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横のインジケーターが黄色に点灯します。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

- 風景、夜景では設定できません。

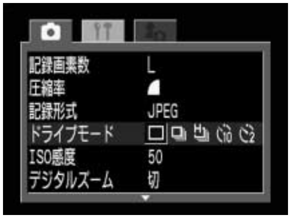
- マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使っても撮影できますが、その場合は撮影範囲がずれます。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端で約108×80mm、テレ端では、約111×83mmとなります。
- マクロモードでストロボをお使いになると、画像の明るさが適切にならないことがあります。
- 電源を切ると、設定は解除されます。

セルフタイマーを使って撮る

セルフタイマーを使って撮影します。どの撮影モードでも使えます。

1 [(撮影)]メニューから[ドライブモード]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39



2 [⏱10]または[⏱2]を選び、MENUボタンを押す

- [⏱10]は、シャッターボタンを全押ししてから10秒後に、[⏱2]は2秒後に、撮影されます。

3 撮影する

- [⏱10]を選んだときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になるとセルフ音が鳴り、点滅が速くなります。
- [⏱2]を選んだときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが最初から速く点滅し、2秒後に撮影されます。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

- 電源を切ると、設定は解除されます。

- セルフ音は、[(マイカメラ)]メニューの[セルフタイマー音] で変更することができます。➔ p. 142

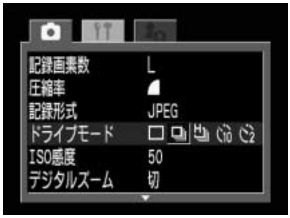
連続して撮る

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

	通常連続撮影	画像を確認しながら連続撮影したいときにおすすめします。ただし、シャッター間隔はより長くなります。
	高速連続撮影	早いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。ただし、大きい画素数、または高画質で撮影すると、内部メモリーがよりも早くいっぱいになります。

1 [(撮影)]メニューから[ドライブモード]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39



2 [ ]または[ ]を選び、MENUボタンを押す

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

4 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを離すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は、次のようになります。
  [ ]のとき･･･約2画像/秒*(S30)、約1.5画像/秒*(S40)
  [ ]のとき･･･約3画像/秒*(S30)、約2.5画像/秒*(S40)
  * ラージ/ファイン、液晶モニター非表示時
  (当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。)

- AUTO、、では設定できません。
- [ ]の場合、液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- ストロボは使用できますが、撮影のたびにストロボの充電時間がかかるため撮影間隔は長くなります。

- CFカードの容量がいっぱいになるまで、連続撮影できます。
- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が多少遅くなることがあります。

デジタルズームで撮る

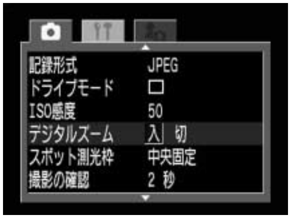
光学ズームと組み合わせて、次の倍率(目安)に拡大することができます。
PowerShot S30： 3.8倍、4.8倍、6.0倍、7.4倍、10倍
PowerShot S40： 4.3倍、5.3倍、6.7倍、8.2倍、11倍

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 撮影モードダイヤルを、以外の任意の位置にする

3 [(撮影)]メニューから[デジタルズーム]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39



4 [入]を選び、MENUボタンを押す

5 ズームレバーを側にスライドする

- 最も望遠側(テレ端)まで拡大すると、いったん停止します。再度、ズームレバーを側にスライドすると、さらに拡大できます。
- 側にスライドすると、倍率が下がります。



画面例：PowerShot S40
光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率を表示

6 撮影する

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 46)」と同じです。

- 、、記録形式がRAWのときは設定できません。
- デジタルズームは、拡大するほど画質が粗くなります。
- デジタルズームの[入]/[切]の設定は、電源を切っても保持されます。次回、同じ設定で撮影する場合は、手順3、4の操作は必要ありません。

撮影 - 目的に合わせた応用撮影

記録画素数や圧縮率、シャッター速度、絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。

- 設定を変更した後の撮影の手順は、「AUTOオートで撮る(p. 46)」をご覧ください。

記録画素数と圧縮率を変更する

目的に応じて、記録画素数、圧縮率(動画を除く)を変更できます。
記録画素数は、**S**(スモール)→**M2**(ミドル2)→**M1**(ミドル1)→**L**(ラージ)の順に大きくなります。大きくプリントしたい場合は、大きな画素数を選ぶことをおすすめします。また小さなシールにプリントする場合や、電子メールで送ったり、より多くの画像を撮影したいときなどは、小さな画素数を選ぶことをおすすめします。
画質は、(ノーマル)→(ファイン)→(スーパーファイン)の順に高画質になります。より良い画質で撮影したい場合は(スーパーファイン)を、より多くの画像を撮影したい場合は(ノーマル)をおすすめします。通常は、(ファイン)で十分な画像が得られます。CCDのオリジナルデータを記録したい場合は、RAWを選んでください。→ p. 66

記録画素数(動画以外)

	PowerShot S30	PowerShot S40
L(ラージ)	2048×1536画素	2272×1704画素
M1(ミドル1)	1600 × 1200画素	
M2(ミドル2)	1024 × 768画素	
S(スモール)	640 × 480画素	

記録画素数(動画)

320	320×240画素
160	160×120画素

• PowerShot S30/S40共通です。

圧縮率(動画以外)

S	スーパーファイン
	ファイン
	ノーマル

1 撮影モードダイヤルを任意の位置にする

2 [（撮影）]メニューから[記録画素数]または[圧縮率]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

3 必要な記録画素数または圧縮率を選び、MENUボタンを押す

記録画素数（以外）



圧縮率



記録可能画像数（記録画素数、圧縮率、記録形式を変更したときのみ表示）

画面例：PowerShot S40

4 撮影する

1画像の容量（目安）

PowerShot S30		S	◢	▟
L	(2048×1536)	1602	893	445
M1	(1600×1200)	1002	558	278
M2	(1024× 768)	570	320	170
S	(640× 480)	249	150	84
RAW	(2048×1536)	2469		

単位：KB

PowerShot S40		S	◢	▟
L	(2272×1704)	2002	1116	556
M1	(1600×1200)	1002	558	278
M2	(1024× 768)	570	320	170
S	(640× 480)	249	150	84
RAW	(2272×1704)	2862		

単位：KB

320	(320× 240)	240
160	(160× 120)	60

単位：KB/秒

320	(320× 240)	240
160	(160× 120)	60

単位：KB/秒

＊この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況などにより変わります。
＊CFカードの種類別、記録可能画像数については、p. 23をご覧ください。

- [スティッチアシスト]では、記録画素数は1画像目のみ設定できます。
- 記録画素数や圧縮率は、撮影モードを変更した場合、次のようになります（[動画] は、記録画素数のみ）。

変更前の撮影モード	変更後の撮影モード	変更後の記録画素数、圧縮率
AUTO [スティッチアシスト]	AUTO [ポートレート] [風景] [夜景] [高速シャッター] [スローシャッター] [カラー] [スティッチアシスト] P Tv Av M	変更したモードの設定内容に変わります。
[ポートレート] [風景] [夜景] [高速シャッター] [スローシャッター] [カラー]	[ポートレート] [風景] [夜景] [高速シャッター] [スローシャッター] [カラー] [スティッチアシスト]	設定内容は変わりません。
	AUTO P Tv Av M	変更したモードの設定内容に変わります。
P Tv Av M	P Tv Av M	設定内容は変わりません。
	AUTO [ポートレート] [風景] [夜景] [高速シャッター] [スローシャッター] [カラー] [スティッチアシスト]	変更したモードの設定内容に変わります。

- 設定した記録画素数や圧縮率は、電源を切っても解除されません。

記録形式を変更する

記録形式をRAWに変更して撮影できます。

通常のＪＰＥＧ形式は、適正な画質になるようにカメラ内で画像処理を行っています。またCＦカードに多くの画像を記録できるように、ファイルサイズを圧縮しています。これは非可逆圧縮ですので、オリジナルと完全に同一のデータを復元することはできません。

一方、ＲＡＷ形式は、カメラ内で画像処理することなく、ＣＣＤからの画像データをそのまま記録します。またJPEG形式と同じく記録時に圧縮していますが、オリジナルデータを完全に復元*できる可逆圧縮ですので、非圧縮ファイルと同等のデータ劣化がまったくない高品位な画像が得られます。そのうえ、RAW形式のファイルサイズは、非圧縮ファイルであるRGB TIFF形式の約1/4**と、大変コンパクトです。

RGB TIFF形式など一般の非圧縮ファイルの場合、カメラ内で画像処理をしており、さらに画質を調整するには、レタッチソフトウェアでの処理が必要ですが、その際、画質が劣化してしまいます。しかしRAW形式は、専用のソフトウェア*によりオリジナルの画像データ上で画質（ホワイトバランス、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）を調整できるため、高品位を保ったまま、お好みの画像を作り出すことができます。RAW形式を選択すると、記録画素数や圧縮率は選択できません。記録画素数は、2048×1536（S30）、2272×1704（S40）に固定されます。

*** ＲＡＷ形式データで記録した画像をコンピューターで開いたり、画質を調整するには、同梱のソフトウェアを使います。詳しくは、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。**

** 当社測定条件によります。

1 撮影モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**のいずれかにする

2 [(撮影)]メニューから[記録形式]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39



3 [RAW]を選び、MENUボタンを押す

- 液晶モニターがついている場合、RAWが液晶モニターに表示されます。

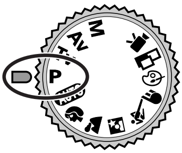
4 撮影する

- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、カメラのシャッター速度と絞り数値を自動設定します。

1



撮影モードダイヤルを P にする

2 撮影する



- 液晶モニターがついている場合、シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、液晶モニターに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。

- 適正露出が得られない場合、シャッター速度と絞り数値は赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、白字で表示されます。
  - ストロボを使用する
  - ISO感度を変更する
  - 測光方式を変更する

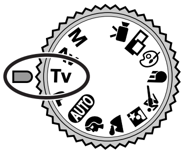
PとAUTOの違い

- **P**とAUTOは、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じです。
- **P**では、次の機能を使用できますが、AUTOではできません。
  - ·露出補正　·ホワイトバランス　·AEB撮影　·ストロボ調光補正
  - ·ストロボ（赤目緩和オン/オン）　·連続撮影　·記録形式の変更
  - ·画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）
  - ·測光方式の変更　·マニュアルフォーカス
  - ·AF枠の変更（左端もしくは右端のAF枠）　·AEロック　·FEロック
- 絞り数値とシャッター速度について ➔ p. 69

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

1



モードダイヤルを Tv にする

- 液晶モニターがついている場合、シャッター速度が表示されます。

2

マルチコントローラーの◀▶でシャッター速度を選ぶ



3

撮影する

- シャッター速度と絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。



- 絞り数値が赤字で表示されたときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過度）です。
  白字で表示されるまで、マルチコントローラーの◀▶でシャッター速度を調節してください。
- シャッター速度が遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラは、シャッター速度が１.３秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます。（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります。）

- シャッター速度が遅くなると、手ブレしやすくなります。液晶モニター中央に⬚（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ズームによって、絞り数値とシャッター速度は次のように変わります。

	絞り数値	シャッター速度（秒）
ワイド端	F 2.8～3.5	～1/1000
	F 4.0～8.0	～1/1500
テレ端	F 4.9～6.3	～1/1000
	F 7.1～8.0	～1/1500

シャッター速度の表示

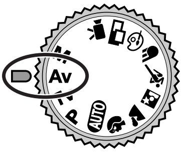
以下のシャッター速度に設定できます。1/160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

1/1500　1/1250　1/1000　1/800　1/640　1/500　1/400
1/320　1/250　1/200　1/160　1/125　1/100　1/80　1/60
1/50　1/40　1/30　1/25　1/20　1/15　1/13　1/10　1/8
1/6　1/5　1/4
0″3　0″4　0″5　0″6　0″8　1″　1″3　1″6　2″　2″5　3″2　4″
5″　6″　8″　10″　13″　15″

Av 絞りを決めて撮る

絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になるシャッター速度を自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

1



撮影モードダイヤルを Av にする

- 液晶モニターがついている場合、絞り数値が液晶モニターに表示されます。

2

マルチコントローラーの◀▶で絞り数値を選ぶ



3

撮影する

- シャッター速度と絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。



- シャッター速度が赤字で表示されるときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過度）です。
  白字で表示されるまで、マルチコントローラーの◄► で絞り数値を調節してください。

- 絞り数値を大きくすると、シャッター速度が遅くなり、手ブレしやすくなります。液晶モニター中央に（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。
- ストロボ発光時、最も遅いシャッター速度は、1/60秒になります。

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。

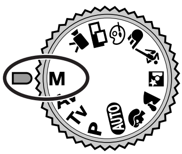
F2.8	F3.2	F3.5	F4.0	F4.5	F5.0	F5.6	F6.3	F7.1	F8.0

- 絞り数値とシャッター速度の関係について ➔ p. 69

M 自由にシャッター速度/絞りを決めて撮る

シャッター速度や絞り数値を自分で決定し、狙い通りの撮影ができます。花火の撮影など露出の設定が難しいときに使うと便利です。

1



撮影モードダイヤルを M にする

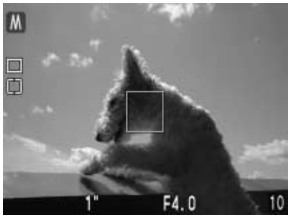
- 液晶モニターがついている場合、シャッター速度と絞り数値が液晶モニターに表示されます。

2

マルチコントローラーの◀▶でシャッター速度を選ぶ

3

マルチコントローラーの▲▼で絞り数値を選ぶ



4

撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに標準露出*からのずれが表示されます。このずれが±2段を越えると、この液晶モニターに、「−2」または「+2」と赤字で表示されます。

* 設定されている測光方式を元にAEを行って、標準露出を算出します。

- 露出補正、AEロック、FEロック、ストロボ調光補正、AEB撮影、ISO感度（AUTO）は設定できません。

- 露出を変更したい場合は、マルチコントローラーの◀▶でシャッター速度、▲▼で絞り数値を変更してください。
- 速いシャッター速度を設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを（赤目緩和オン）または（オン）にすると、液晶モニターは暗くならないため、撮影前に被写体を確認できます。

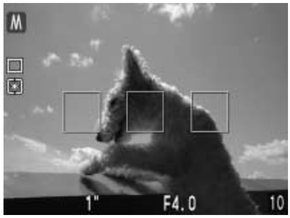
- 絞り数値とシャッター速度の関係について ➔ p. 69

AF枠を選択する

AF枠は、ピントを合わせるための枠です。以下のAF枠に選択できます。

■ ■ ■	オート選択	撮影状況に応じてカメラが自動的にAF枠を選択してピントを合わせます。
□ ■ □ ■ □ □ □ □ ■	マニュアル選択	3つのAF枠から、任意の一点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたり構図を楽しむのに便利です。

■は、液晶モニター上では緑色に点灯します。



1 を押す

- 液晶モニターに、3つのAF枠が表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶でAF枠を選ぶ

- 選択されているAF枠は緑色で表示されます。

3 を押す

- の代わりに、シャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。

4 撮影する

各モードで選択できるAF枠

撮影モード	AF枠
P Tv Av M	□ ■ □ ■ □ □ □ □ ■
AUTO	■ ■ ■ □ ■ □
	■ ■ ■*

* マクロモードのときは、□ ■ □ になります。

- 電源を切ると、設定は解除されます。

AF枠を選択する(つづき)

- AF枠をマニュアル選択に設定したときは、液晶モニターを使ってAF枠を確認しながら撮影することをおすすめします。
- 測光方式が[スポット測光]のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます。➔ p. 84
- AF枠の色については、p. 35をご覧ください。
- AF枠は撮影モードを変更した場合、次のようになります。

変更前の撮影モード	変更後の撮影モード	変更後のAF枠
P Tv Av M AUTO	AUTO	□ □ □
P Tv Av M	P Tv Av M	設定内容は変わりません
AUTO	P Tv Av M	□ □ □

- AiAFは、広い測距範囲を持ち、ピント合わせを的確に判断します。ピントを合わせたい被写体が中央部から多少ずれている場合でも、目的の被写体にピントを合わせます。
  *Ai = Artificial intelligence :人工知能　AF = オートフォーカス

露出を補正する

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまうようなときに露出を調整します。

1 ☑/WB/▣/⚡ボタンを1回押す



- 液晶モニターに、☑と露出補正バーが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶で露出を調整する

- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。

3 SETを押す

- SETを押さずに、シャッターボタンを押して、設定した露出補正値で撮影することもできます。
- 露出補正を解除するときは、マルチコントローラーの◀▶で補正量を0に戻します。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再び露出補正バーが表示され、設定を変更できます。

- AUTO、Mでは設定できません。▭は、最初の1画像目のみ設定できます。
- 露出補正バーが表示されているときは、マクロモードの設定を変更できません。

- 設定した補正値は、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。→ p. 92

WB ホワイトバランスを設定する

撮影時の光源に応じてホワイトバランスを設定すると、その光源に合った適正な色に調整できます。自然光や照明光で撮影するとき、撮影条件に応じてホワイトバランスを設定します。

AWB	オート	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。
	太陽光	晴天の屋外で撮影するときに設定します。
	くもり	曇天や日陰、薄暮などで撮影するときに設定します。
	電球	電球、電球色タイプ(3波長型)の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ(3波長型)の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ(3波長型)の蛍光灯の照明で撮影するときに設定します。
	ストロボ	ストロボを使って撮影するときに設定します。
	マニュアル	白紙などを使って、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定します。



1 /WB//ボタンを2回押す

- 液晶モニターに、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶でホワイトバランスを選ぶ

- (マニュアル)について ➔ p. 77

3 SETを押す

- SETを押さずに、シャッターボタンを押して、設定したホワイトバランスモードで撮影することもできます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びホワイトバランス設定メニューが表示され、設定を変更できます。

- AUTO、(セピア、白黒)では設定できません。は、最初の1画像目のみ設定できます。
- ホワイトバランス設定メニューが表示されているときは、マクロモードの設定や測光方式(p. 84)を変更できません。

- 設定したホワイトバランスは、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。➔ p. 92

マニュアルホワイトバランスを設定する

白い紙や布など、白の基準としたいものをカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定できます。

1 **/WB//ボタンを2回押す**

- 液晶モニターに、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 **マルチコントローラーの◀▶で を選ぶ**



3 **カメラを白い紙や布に向け、ボタンを押す**

- 液晶モニターを使う場合は、中央の枠いっぱいに、またファインダーを使う場合は、画面いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、ボタンを押してください。ボタンを押すと、白データが取り込まれます。



4 **SETを押す**

- SETを押さずに、シャッターボタンを押して、取り込んだ白データに基づいて設定されたホワイトバランスで撮影することもできます。

5 **撮影する**

- 手順4でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びホワイトバランス設定メニューが表示され、設定を変更できます。

WB ホワイトバランスを設定する(つづき)

- 撮影モードを**P** にし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±0にすることをおすすめします。適正露出でない場合(真っ黒や真っ白)は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- 液晶モニターを使い、ズームをテレ端の位置にすることをおすすめします。
- では、白データの取り込みはできませんので、あらかじめ、他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- ストロボが赤目緩和オート/オートでマニュアルホワイトバランスを設定する場合、白データ取り込みの際にストロボが発光したときは、撮影時もストロボを発光させてください。白データ取り込み時と撮影時のストロボ状態を合わせないと、最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。ストロボ状態を合わせるために、ストロボをオンまたはオフに設定することをおすすめします。
- 設定したホワイトバランスは、電源を切っても解除されません。

露出を自動的に変えて撮る(AEB撮影)

設定した露出補正量の幅に従って、カメラが自動的に露出を変えながら3画像撮影します。標準露出を中心に－2～＋2の範囲で1/3段ずつ補正量を設定できます。また露出補正(p. 75)をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。



1 /WB//ボタンを3回押す

- 液晶モニターに、と露出補正バーが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶で補正量を調整する

- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。

3 SETを押す

- SETを押さずに、シャッターボタンを押して、設定した露出の範囲で3画像を撮影することもできます。
- AEB撮影を解除するときはマルチコントローラーの◀で、補正量を0に戻します。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びと露出補正バーが表示され、設定を変更できます。

- ストロボ発光時は、AEB撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
- 露出補正バーが表示されているときは、マクロモードの設定を変更できません。

- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。
- 設定した補正量は、電源を切っても解除されません。

ストロボの発光量を補正する（ストロボ調光補正）

ストロボを使って撮影するとき、発光量を調節できます。



1 /WB//ボタンを4回押す

- 液晶モニターに、とストロボ調光補正バーが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶で発光量を調整する

- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。

3 SETを押す

- SETを押さずに、シャッターボタンを押して、設定した補正量で撮影することができます。
- ストロボ調光補正を解除するときは、マルチコントローラーの◀▶で補正量を0に戻します。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びとストロボ調光補正バーが表示され、設定を変更できます。

- AUTO、、Mでは設定できません。では、1画像目のみ設定できます。
- ストロボ調光補正バーが表示されているときは、マクロモードの設定を変更できません。

- 設定した調光補正は、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。➔ p. 92

[AEロックアイコン] 露出を固定して撮る（AEロック）

露出とピントを別々に決めて撮影することができます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。
AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果についてはp. 82をご覧ください。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 露出を固定したい被写体にピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

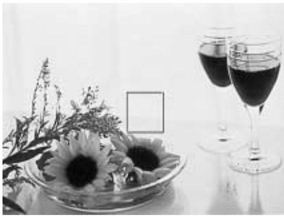
3 シャッターボタンを半押ししたまま[AEロックアイコン]ボタンを押す

- 露出が固定（AEロック）され、液晶モニターに✱が表示されます。
- シャッターボタンの半押しとマルチコントローラーの◀▶▲▼以外のボタンやレバーを操作すると、AEロックを解除できます。



AEロック

4 構図を決め直して撮影する



露出を固定して撮る（AEロック）（つづき）

- 光学ファインダーを使って撮影する場合、AEロックはできません。

- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。

自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影することができます。次のように操作します。

1. モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**のいずれかにする
2. DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける
3. 露出を固定したい被写体にピントを合わせる
   ・シャッターボタンを半押しします。
4. ボタンを押す
   露出が固定され、液晶モニターに✱が表示されます。
5. マルチコントローラーの◀▶で希望するシャッター速度または絞り数値になるまで変える
6. 構図を決め直して撮影する
   撮影が終了し、設定は解除されます。

AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるAE/FEロックの効果（撮影モードがクリエイティブゾーンのとき）

測光方式		AF枠選択時
評価測光		選択しているAF枠を中心にした露出値でAE/FEロックする
中央部重点平均測光		中央のAF枠を中心にした露出値でAE/FEロックする
スポット測光	中央固定	中央のスポット測光枠内の露出値でAE/FEロックする
	AF枠連動	選択しているAF枠に連動したスポット測光枠内の露出値でAE/FEロックする

[FEロック] FEロックして撮る(FEロック)

被写体の任意の部分に適正調光させたストロボ撮影ができます。
AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるFEロックの効果についてはp. 82をご覧ください。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ストロボを設定する → p. 49

3 露出を固定したい被写体にピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

4 シャッターボタンを半押ししたまま[FEロック]ボタンを押す

- 露出が固定(FEロック)され、液晶モニターに[✱]が表示されます。
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- [FEロック]ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。
- シャッターボタンの半押しとマルチコントローラーの◀▶▲▼以外のボタンを押すと、FEロックを解除できます。

5 構図を決め直して撮影する

- 被写体のある部分をねらってFEロックを行い、右の構図にすると、背景の反射光の影響を受けることなく、被写体が適正露出になります。



- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。

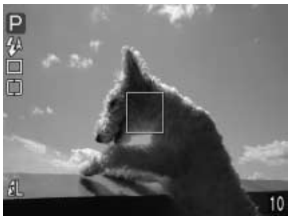
測光方式を切り換えて撮る

測光方式を切り換えて撮影できます。通常[評価測光]に設定されています。

	評価測光		逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。
	中央部重点平均測光		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光枠	中央固定	液晶モニター中央部の「スポット測光枠」内を測光します。逆光などで被写体の周囲に強い光があるときに利用します。
		AF枠連動	選択しているAF枠に連動した「スポット測光枠」内を測光して撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ボタンを押して、測光方式を切り換える



- ボタンを押すたびに次のように測光方式が切り換わります。

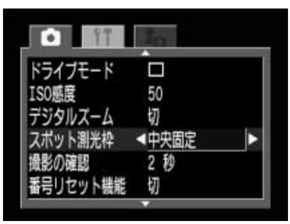
[評価測光] → [中央部重点平均測光] → [スポット測光] → [評価測光]

- 現在選ばれている測光方式が液晶モニターに表示されます。

[スポット測光]を選ぶ→手順3

[評価測光][中央部重点平均]を選ぶ→手順5

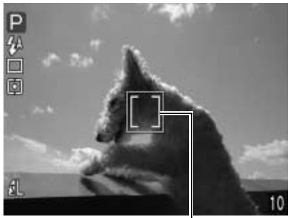
3 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

4 [中央固定]または[AF枠連動]を選び、MENUボタンを押す

- [中央固定]のときは、液晶モニター中央にスポット測光枠が表示されます。[AF枠連動]のときは、選択しているAF枠にスポット測光枠が表示されます。



画面例：
[中央固定]　スポット測光枠

5 撮影する

- 液晶モニターにホワイトバランス設定メニューが表示されているときは、測光方式は選べません。

- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。
- 電源を切ると、設定は解除されます。ただし、メニューで設定したスポット測光枠は、電源を切っても保持されます。

ピントが合いにくい被写体を撮る

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。
・コントラストが極端に低い被写体
・近いものと遠いものが混在する被写体
・画像中央部が極端に明るい被写体
・高速で移動する被写体
これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアルフォーカスで撮影してください。

- ガラス越しの被写体は、できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

フォーカスロックで撮る

フォーカスロック撮影・方法1

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠に合わせる

3 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる

- このときAEロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合は、方法2で撮影するか、またはAEロックで撮影してください。

4 そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

フォーカスロック撮影・方法2

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ、そのままMFボタンを押す

- 液晶モニターにMFが表示されます。
- シャッターボタン、MFボタンを離しても、フォーカスは固定されています。
- 再度MFボタンを押すと、フォーカスロックは解除されます。

3 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

- AUTOのときはフォーカスロックできません。

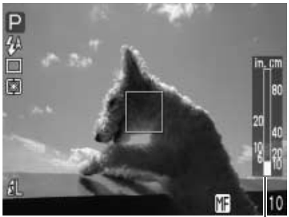
- 方法2は、シャッターボタンを離して構図を決められるので便利です。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 MFボタンを押しながら、マルチコントローラーの▲▼を押す



MFインジケーター

- フォーカスがロックされ、液晶モニターにMFとMFインジケーターが表示されます。AF枠をマニュアル選択（p. 73）しているときは、AF枠を中心に画像が拡大表示*されます。

  * 、、デジタルズーム、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。
- MFインジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。
- 液晶モニター内の被写体がはっきり見えるまで、マルチコントローラーの▲▼でピントを合わせてください。
- 再度**MF**ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横のインジケーターが黄色に点灯します

- AUTOでは設定できません。
- マニュアルフォーカス中はＡＦ枠の変更はできません。ＡＦ枠を変更するときは、一度マニュアルフォーカスを解除してください。

- マニュアルフォーカス時は、マクロモードの撮影距離[10cm（ワイド端）/30cm（テレ端）～80cm]もフォーカスできます。MFインジケーターの単位は細かくなります。
- 別売のウォータープルーフケース　WP-DC300をお使いの場合、手順2で、必ずMFボタンを押しながら、マルチコントローラーの◀▶でインジケーターを表示し、ピントを合わせてください。

好みの画質で撮る

ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さの設定を変えて撮影できます。

1 [(撮影)]メニューから設定項目を選ぶ

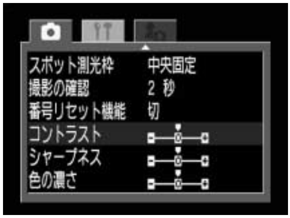
- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

2 設定値を選び、MENUボタンを押す



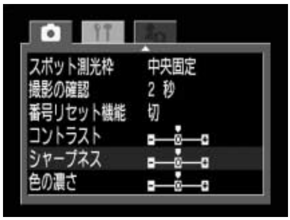
ISO感度

- 暗いときやシャッター速度を速くしたいときに切り換えます。50(初期設定)、100、200、400、800*、AUTOから選びます(*S30のみ)。
- ISO感度を上げると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選択してください。



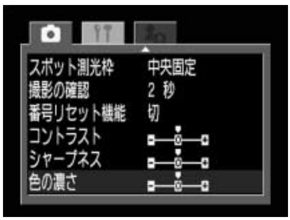
コントラスト

- −(弱め)、0(標準)、+(強め)から選びます。
- 明るさの度合を調節できます。



シャープネス

- −(弱め)、0(標準)、+(強め)から選びます。
- 輪郭のくっきり度合を調節できます。



色の濃さ

- −(薄い)、0(標準)、+(濃い)から選びます。
- 色の濃淡を調節できます。

3 撮影する

- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。ただし**M**では、[ISO感度]を[AUTO]に設定できません。
- 設定は、カメラの電源を切っても解除されません。

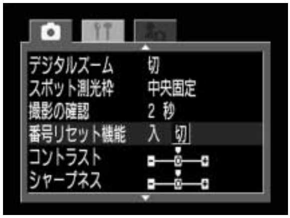
ファイル番号をリセットする

ファイル番号の設定方法を選択します。

入	新しいCFカードを入れるたびに、ファイル番号が初期値（100-0001）に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。

1 [（撮影）]メニューから[番号リセット機能]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

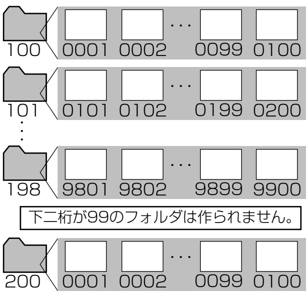


2 [入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

- 番号リセット機能を[切]にして撮影すると、ファイル番号が重複しないため、コンピューターでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号について

撮影した画像には、0001～9900までのファイル番号が割り振られ、1つのフォルダに100画像ずつ保存されます。各フォルダには、100～998までの番号が割り振られます。



連続撮影やスティッチアシストモードで撮影した画像は、必ず1つのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることもあります。

各撮影モードで設定できる機能

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。

			AUTO									P	Tv	Av	M	参照先
ストロボ	赤目緩和オート		○*	○*	○	○*	○	○	○	–	–	○	–	–	–	p. 49
	オート		○	○	○	○	○*	○	○*	–	–	○	–	–	–	
	赤目緩和オン		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	オン		–	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	オフ		○	○	○*	○	○	○*	○	△*	○	○*	○*	○*	○*	
マクロモード			○	○	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p. 59
ドライブモード	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	–
	通常連続撮影		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	p. 61
	高速連続撮影		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	p. 61
	10秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p. 60
	2秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p. 60
AF枠の選択	オート選択		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○(1)	○(1)	○(1)	–	–	–	–	p. 73
	マニュアル選択		○(2)	○(2)	○(3)	○(3)	○(2)	○(2)	–	–	–	○	○	○	○	p. 73
露出補正			–	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	–	p. 75
ホワイトバランス		WB	–	○	○	○	○	○	○(4)	△	○	○	○	○	○	p. 76
AEB撮影			–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	p. 79
ストロボ調光補正			–	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	–	p. 80
AEロック/FEロック撮影			–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	p. 81/83
測光方式	評価測光		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*	p. 84
	中央部重点平均測光		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	スポット測光		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
		中央固定	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○*	○*	○*	○*	
		AF枠連動	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
マニュアルフォーカス		MF	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p. 88
記録画素数	ラージ	L	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	p. 63
	ミドル1	M1	○	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	ミドル2	M2	○	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	スモール	S	○	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	動画	320	–	–	–	–	–	–	–	–	○*	–	–	–	–	
	動画	160	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	
圧縮率	スーパーファイン	S	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	p. 63
	ファイン		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	–	○*	○*	○*	○*	
	ノーマル		○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	

		AUTO									P	Tv	Av	M	参照先
記録形式	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	p. 66
	RAW RAW	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
ISO感度		–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	○	○	○	–(6)	p. 89
デジタルズーム		○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	p. 62
コントラスト		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p. 89
シャープネス		–	–	–	–	–	–	–	–		○	○	○	○	
色の濃さ		–	–	–	–	–	–	–	–		○	○	○	○	

*初期設定　○：設定可　△：最初の1画像のみ設定可　–：設定不可

：電源を切っても解除されません。

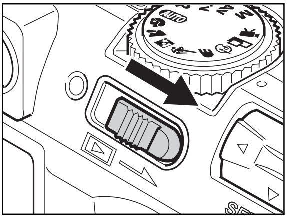
[日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます。➔ p. 143

(1) マクロモード時は、中央のAF枠が初期設定になります。
(2) 中央のAF枠のみ設定可能。マクロモード時の初期設定。
(3) 中央のAF枠のみ設定可能。
(4) [セピア]、[白黒]は設定できません。
(5) ISO50～150相当で自動設定。
(6) [AUTO]は設定できません。

1画像ずつ見る（シングル再生）

撮影した画像を液晶モニターに表示します。

1



パワー/再生レバーを右にスライドする

- 最後に撮影した画像が表示されます。（シングル再生）

2

マルチコントローラーの◀▶で表示画像を切り換える

- ◀で前の画像、▶で次の画像を表示します。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。



- DISPLAYボタンを押すと、表示している画像の情報が表示されます。➔ p. 31
- ボタンを押すと、表示している画像を簡単に消去できます。➔ p. 106
- SETボタンを押しながらJUMPボタンを押すと、液晶モニターに表示する言語を変更できます。（ただし、別売のカメラダイレクト対応プリンターおよびカメラダイレクト対応BJプリンタ接続時は設定できません。）➔ p. 26

拡大して見る

シングル再生時、表示している画像をPowerShot S30は約2.5倍/約5倍に、PowerShot S40は約3倍/約6倍に拡大表示します。

1 パワー/再生レバーを右にスライドする

2 ズームレバーを側にスライドする



約3倍に拡大
(例:PowerShot S40)

表示位置の目安



約6倍に拡大
(例:PowerShot S40)

表示位置の目安

- ズームレバーを側にスライドするたびに、画像を拡大して表示します。
- マルチコントローラーの◀▶または▲▼で表示位置を変更できます。

拡大した画像を等倍まで戻す

1 ズームレバーを側にスライドする

- 最大まで拡大しているときにスライドして離すと約2.5倍(PowerShot S30)/約3倍(PowerShot S40)に、再度スライドして離すと等倍になります。

- 動画、インデックス再生時は拡大表示できません。

- 別売のウォータープルーフケース WP-DC300をお使いの場合、拡大再生中に表示位置を上下に変更できません。

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像も、拡大して見ることができます。
➔ p. 48

9画像ずつまとめて見る(インデックス再生)

撮影した画像を、9画像ずつまとめて表示します。

1 パワー/再生レバーを右にスライドする

2 ボタンを押す

- 9画像ずつまとめて表示されます。(インデックス再生)



3 マルチコントローラーの◀▶または▲▼で選択画像を切り換える



4 ボタンを押す

- インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。

- DISPLAYボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます。➔ p. 31

JUMP 9画像ずつ表示を切り換える

シングル再生またはインデックス再生時、画像をジャンプして表示します。

1 シングル再生時(p. 94)またはインデックス再生時(p. 96)に、JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが表示されます。

2 画像を切り換える

シングル再生のとき

- マルチコントローラーの◀▶で、前または次の10画像目を表示します。



ジャンプバー

インデックス再生のとき

- マルチコントローラーの◀▶で、前または次の9画像を表示します。



ジャンプバー

3 JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが消え、シングル再生、またはインデックス再生に戻ります。

動画を見る

🎥で撮影した動画を再生します。

1 パワー/再生レバーを右にスライドする

- インデックス再生のときは、動画は再生されません。

2 マルチコントローラーの◀▶で🎥（動画）で撮影した画像を表示する

- (SET)▶/IIが表示されている画像が動画です。



3 SETを押す

- 動画と音声が再生されます。
- マルチコントローラーの▲▼で音量を調節できます。
- 再生を終了すると、最後のフレームを表示したままで停止します。その状態で、再び**SET**を押すと、最初のフレームから再生されます。

再生の一時停止/再開

- **SET**を押すと再生を一時停止します。
  再度**SET**を押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- マルチコントローラーの◀ ▶ を押すと、再生を中断し、前または次の画像を表示します。

- コンピューターで動画を再生するとき、コンピューターの性能によっては、画像がコマ落ちしたり、音声が途切れることがあります。

- 再生モード時、設定メニューでも、動画の再生音量を調節できます。➔ p. 139
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

元画像



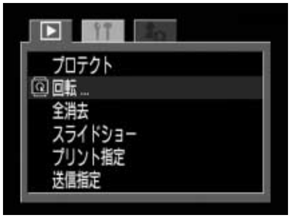
90度



270度

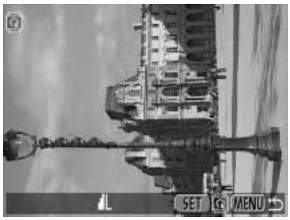


1 [▶(再生)]メニューから[回転]を選んでSETを押す



- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

2 マルチコントローラーの◀▶で回転したい画像を選び、SETを押す



- SETを押すたびに、90度→270度→元画像を表示します。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は回転表示できません。

- カメラで回転した画像をコンピューターに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- 画像を回転したあとで、拡大することもできます。➔ p. 95

音声メモを付ける

再生中(シングル再生、インデックス再生、拡大再生、撮影直後の画像表示中)に、再生中の画像に最長60秒の音声メモを付けることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 画像再生中に、🎙ボタンを押す

- AVパネルが表示されます。



2 マルチコントローラーの◀▶で [●] を選び、SETを押す

- 録音が始まり、録音時間が表示されます。カメラのマイクに向かって音声を発してください。
- 停止するときはSETを押します。引き続き録音をするときは、もう一度SETを押します。
- 一画像につき、合計が60秒に達するまで何度でも録音を追加することができます。



音声メモを再生するには

上記手順2で、[▶] を選びます。音声メモの付いた画像には♪マークが表示されています。停止するときは SETを押します。引き続き再生するときは、もう一度SETを押します。マルチコントローラーの▲▼で、音量を調節できます。

音声メモを消去するには

上記手順2で、[🗑] を選びます。

- 動画には音声メモを付けられません。
- CFカードの容量がいっぱいになると、「CFカードがいっぱいです」のメッセージが表示されて録音できません。
- 画像に既に音声ファイルが添付されていて互換性がない場合、録音、再生はできません。画像には♪?マークが表示され、録音、再生をしようとすると、「不明な音声データがあります」のメッセージが表示されます。

- 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます。➔ p. 139

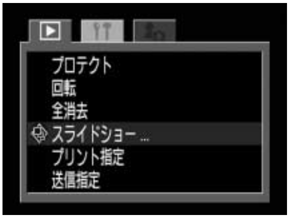
画像を自動再生する(スライドショー)

スライドショーを始める

全画像または選択した画像を自動再生します。

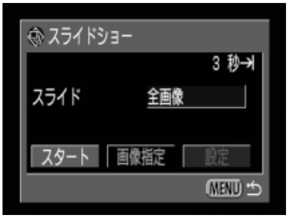
全画像	CFカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します。➔ p. 102

1 [▶(再生)]メニューから[スライドショー]を選んでSETを押す



- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39
- [スライドショー]メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの▲▼で[スライド]を選び、◀ ▶ で[全画像]、[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選ぶ



3 マルチコントローラーの▲▼で[スタート]を選び、SETを押す

- スライドショーが開始され、再生後、自動的にスライドショーが終了します。

スライドショーの一時停止/再開

- SETを押すと自動再生を一時停止します。再度SETを押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- マルチコントローラーの◀▶で前または次の画像へ進めます。

スライドショーの中止

- 再生中にMENU ボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

4 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

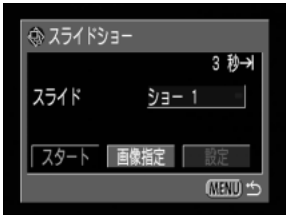
- 動画は、設定した再生間隔にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。➔ p. 29

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、[ショー1]から[ショー3]に保存します。最大100画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1 スライドショーメニューを表示する ➔ p. 101

2 マルチコントローラーの▲で[スライド]を選び、◀▶で[ショー1]〜[ショー3]のいずれかを選ぶ



- すでに画像指定されているショーには、明るい緑色のアイコン(▬)が点灯しています。

3 マルチコントローラーの▼と◀▶で[画像指定]を選んでから、SETを押す

4 再生する画像を選ぶ

シングル再生のとき



- マルチコントローラーの◀▶で画像を選びます。▲▼で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号と明るい緑色のアイコン(▬)が表示されます。

インデックス再生のとき



- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- マルチコントローラーの◀▶で画像を選びます。▲▼で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の下部には、選択順の番号と明るい緑色のアイコン(▬)が表示されます。
- SETを押し、マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選んだあとでSETを押すと、すべての選択を解除できます。

5 MENUボタンを押す

- 画像指定を終了します。

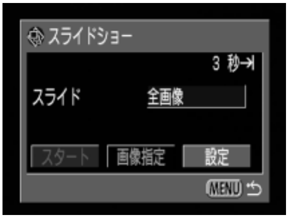
再生間隔やリピート設定をする

再生間隔やリピート設定をします。

再生間隔	スライドショーで1画像を表示する時間を指定します。3〜10秒、15秒、30秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 スライドショーメニューを表示する

2 マルチコントローラーの◀▶で[設定]を選び、SETを押す



3 マルチコントローラーの▲▼で[再生間隔]または[リピート]を選ぶ

4 マルチコントローラーの◀▶で設定する

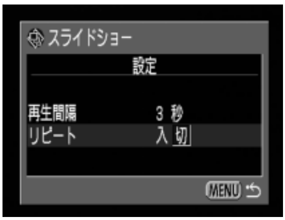
再生間隔

- 再生時間を選びます。



リピート設定

- [入]または[切]を選びます。



5 MENUボタンを押す

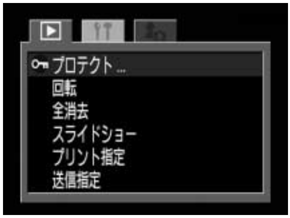
- 設定を終了します。

- 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。
- 同梱されているソフトウェアを使用すると、スライドショーの編集が簡単に行えます。

画像を保護(プロテクト)する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 [▶(再生)]メニューから[プロテクト]を選んでSETを押す



- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

2 マルチコントローラーの◀▶でプロテクトしたい画像を選び、SETを押す



- プロテクトを設定した画像には、[プロテクト]が表示されます。
- プロテクトを設定した画像でSETを押すと、プロテクトを解除します。
- [インデックス]ボタンでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。

3 MENUボタンを押す

- 設定を終了します。

- CFカードを初期化(p.108)すると、プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカードを初期化するときはCＦカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

1画像ずつ消去する

● 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 再生モードにする ➔ p. 30

2 マルチコントローラーの◀▶で消去したい画像を選び、🗑ボタンを押す

3 マルチコントローラーの◀▶で[消去]を選び、SETを押す

● 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETを押します。

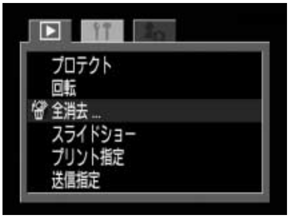


● プロテクトされている画像は消去できません。➔ p. 105

全画像を消去する

● 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 [▶(再生)]メニューから[全消去]を選んでSETを押す



● メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39

2 マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押す



● 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETを押します。

● プロテクトされている画像は消去できません。➔ p. 105

CFカードを初期化する

新しいＣＦカードをお使いになるときや、ＣＦカード内の画像だけでなく、他のデータもすべて削除したいときは、CFカードを初期化します。

- ＣＦカードを初期化すると、ＣＦカードの記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、あらかじめ記録内容を十分に確認してから行ってください。

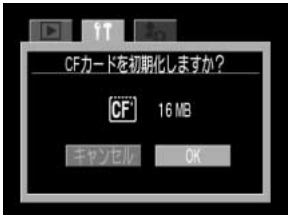
1 [(設定)]メニューから[CFの初期化]を選んで**SET**を押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39



2 マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、**SET**を押す

- 初期化を取り消すときは、[キャンセル]を選び、**SET**を押します。



- カメラが正しく動作しないときは、ＣＦカードが壊れている可能性があります。初期化してください。
- キヤノン製以外のCFカードでも正しく動作しないときは、初期化することでお使いになれることがあります。
- 他のカメラやコンピューター、周辺機器で初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。

プリントの設定(DPOF プリント指定)

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数を指定できます。また、プリントタイプの選択や、画像に日付、ファイル番号を付けたプリントの指定もできます。
この指定は、DPOF(Digital Print Order Format)に準拠していますので、DPOF対応のデジタルプリンターやラボプリントサービスでプリントを注文するときに便利です。

- DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画、記録形式がRAWの画像は、プリント指定できません。

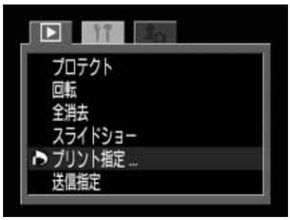
- DPOFの設定後、別売のカメラダイレクト対応プリンターやカメラダイレクト対応BJプリンタと接続して直接プリントできます。➔ p. 114、123

プリントする画像を選ぶ

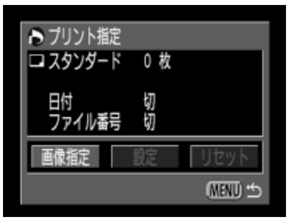
画像の指定には、次の2つの方法があります。
・1画像ずつ指定する
・CFカード内のすべての画像を指定する(プリント枚数は各画像につき1枚です。)

1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39
- [プリント指定]メニューが表示されます。



2 マルチコントローラーの◀▶で[画像指定]を選び、SETを押す



3 プリントする画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき



- プリントタイプ(p. 111)が[スタンダード]/[両方]の場合、マルチコントローラーの◀▶で画像を選びます。マルチコントローラーの▲▼で、プリント枚数が指定できます。(最大99枚まで)



- プリントタイプ(p. 111)が[インデックス]の場合、マルチコントローラーの◀▶で画像を選び、▲▼で、指定、指定解除を行います。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CFカード内のすべての画像を指定するとき



- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- SETを押した後で、マルチコントローラーの▲▼で[全画像指定]を選び、再度SET を押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
- プリントタイプが[スタンダード]/[両方]の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。[インデックス]の場合は、プリント指定の解除ができます。変更方法は、手順3のはじめからもう一度ご覧ください。
- [全指定解除]を選ぶと、すべての指定を解除できます。

4 MENUボタンを押す

- プリント指定が終了し、[プリント指定]メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- [プリントタイプ]が[両方]の場合、プリント枚数は指定できますが、[インデックス]の場合は指定できません。[インデックス]では1枚のみプリントされます。
- 同梱されているソフトウェアでもプリント指定ができます。

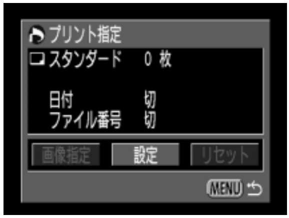
プリントスタイルを指定する

次のプリントスタイルを指定できます。

プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

1 [プリント指定]メニューを表示する ➔ p. 109

2 マルチコントローラーの◀▶で[設定]を選び、SETを押す

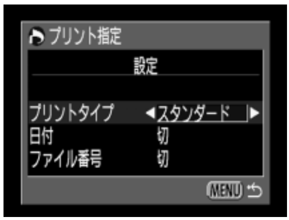


3 マルチコントローラーの▲▼で[プリントタイプ]、[日付]、[ファイル番号]のいずれかを選ぶ

4 マルチコントローラーの◀▶で設定する

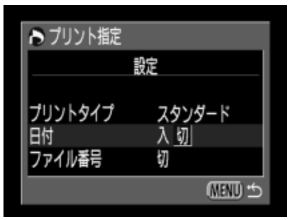
プリントタイプ

- [スタンダード]、[インデックス]、[両方]のいずれかを選びます。



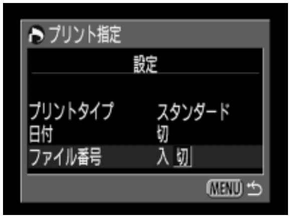
日付

- [入]または[切]を選びます。



ファイル番号

● [入]または[切]を選びます。



5 MENUボタンを押す

● 設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

● [プリントタイプ]が[インデックス]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定することはできません。
● [プリントタイプ]が[両方]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定できますが、インデックスプリントには、[ファイル番号]のみプリントされます。

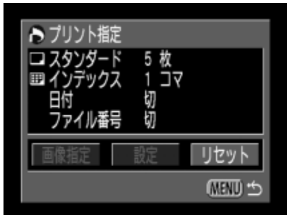
● 日付は、[日付/時刻]で設定した日付スタイルでプリントされます。➔ p. 25

プリントの設定をリセットする

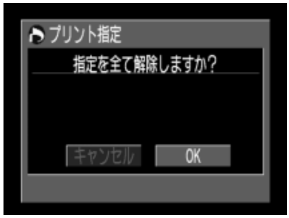
プリント指定された画像をすべて解除し、プリントタイプを［スタンダード］、日付を［切］、ファイル番号を［切］に戻します。

1 ［プリント指定］メニューを表示する ➔ p. 109

2 マルチコントローラーの◀▶で［リセット］を選び、**SET**を押す



3 マルチコントローラーの◀▶で［OK］を選んだ後、**SET**を押す



カメラダイレクト対応プリンター(別売)でプリント

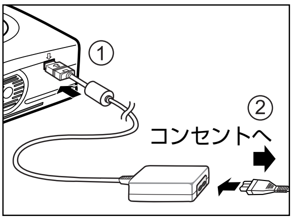
カメラダイレクト対応プリンター(別売)とカメラを接続して、撮影した画像を簡単にダイレクトプリントできます。また、DPOFのプリント設定でプリントできます。
このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップでご確認ください。

カメラダイレクト対応プリンターを接続する

プリンターには、ダイレクトインターフェースケーブルが2 本同梱されています。このカメラと接続するときは、コネクターに「⭠」マークがついているケーブル(DIF-100)をお使いください。

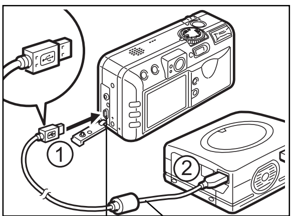
- カメラをプリンターに接続する場合、カメラの電源には、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリントする際は、バッテリーの残量にご注意ください。

1 カメラの電源を切る ➔ p. 28

2 

プリンターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込むか、プリンター用の充電式バッテリーを取り付ける

- 充電式バッテリーがお使いになれるかどうかは、プリンターによって異なります。プリンターに同梱されているユーザーガイドもお読みください。

3 

ダイレクトインターフェースケーブルで、プリンターとカメラを接続する

- ケーブルを差し込むときは、「⭠」マークがカメラの背面になるように差し込んでください。

4 パワー/再生レバーを右へスライドし、カメラの電源を入れる



- プリンターが正しく接続されていると、カメラの液晶モニターにが表示され、パワー/モードインジケーターが緑色に点灯します。

カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの側面を持って引いてください。

- ペーパーやインクカセットの取り付け方は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターを接続しているときは、次の操作ができません。
  - ・ 動画再生
  - ・ SET ＋ JUMPボタンを使った言語の設定
- プリンターとの接続を解除すると、液晶モニター左上の が消え、通常の再生モードになります。

プリントする

シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。

1 マルチコントローラーの◀▶でプリントしたい画像を表示し、SETを押す

2 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、トリミングの指定をする

- プリント枚数を指定する ➔ p. 117
- プリントスタイルを指定する ➔ p. 117
- トリミング（画像の一部分をプリント）を指定する ➔ p. 119

3 マルチコントローラーの▲▼または◀▶で[プリント]を選び、SETを押す

- JUMPボタンでも[プリント]を選べます。
- プリントが開始され、プリントが正常に終了すると再生画面に戻ります。



- 記録形式がRAWの画像や、動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSETを押します。確認の画面が表示されるので、マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押します。
- プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画像に戻ります。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます（p.151）。マルチコントローラーの◀▶で[中止]または[再開]を選び、SETを押します。
- エラーの内容によっては、[再開]が表示されないこともあります。その場合は、[中止]を選びます。

プリント枚数を指定する

1 再生画面で**SET**を押し、マルチコントローラーの▲▼で[枚]を選ぶ



2 マルチコントローラーの◀▶で枚数を指定する

- 1～99まで指定できます。

プリントスタイルを指定する

次のスタイルを設定できます。

画面設定	1画面	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	分割画面*	ペーパー1枚に同一の画像を8画面プリントします。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

*カードサイズのペーパーにプリントするときのみ設定できます。

1 プリント指定画面で、マルチコントローラーの▲▼で[スタイル]を選び、**SET**を押す

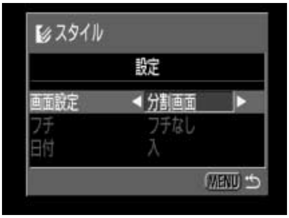


2 マルチコントローラーの▲▼で[画面設定]、[フチ]、[日付]のいずれかを選ぶ



3 マルチコントローラーの◀▶で設定する

画面設定



[1 画面]または[分割画面]を選びます。

フチ



[フチなし]または[フチあり]を選びます。

日付



[入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押し、設定を終了する

- [フチなし]や[分割画面]を選ぶと、撮影した画像の中央部が大きくプリントされます。このため、画像の上下左右がカットされます。トリミング設定をしていないときは、プリント範囲枠が表示されるので、カットされる部分が確認できます。



- [分割画面]の場合、日付とフチは設定されません。(日付[切]、[フチなし]でプリントされます。)
- [フチあり]を選ぶと、撮影した(液晶モニターに表示される)画像とほとんど同じ領域がプリントされます。

画像の一部分をプリント(トリミング)指定する

プリントする範囲を指定できます。

トリミングする前に
プリントスタイル(画面設定、フチ、日付など)を指定してください。➔ p. 117

1 再生画面でSETを押し、マルチコントローラーの▲▼で[トリミング]を選び、SETを押す



- トリミング枠が画面中央に表示されます。すでにトリミングが設定されている画像の場合は、設定されたトリミング枠が表示されます。

2 トリミングする



トリミング枠の大きさを変更する
- ズームレバーを側または側に押します。
- トリミング枠は、最小で表示画面のほぼ半分、最大で表示画面とほぼ同じ大きさまで変更できます。
- トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを側に押すと、トリミングは解除されます。
- トリミングで画像を拡大プリントする場合、拡大率によっては、プリントが粗くなります。その場合は、トリミング枠が赤くなります。

トリミング枠の位置を指定する
- マルチコントローラーの▲▼または◀▶でトリミング枠を移動します。

トリミング枠を回転する
- DISPLAYボタンを押すと、トリミング枠を回転し、縦横を変更できます。

3 MENUボタンを押し、設定を終了する



トリミング枠

- トリミングは1画像にのみ設定できます。
- トリミング設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  - ー 他の画像にトリミング設定をする
  - ー プリントモードを終了する(カメラの電源を切る、モードを変更する、DIF-100を取り外す)
  - ー トリミング枠を最大よりも大きくする

- トリミングの枠の形状は、画面設定、フチの設定で決まります。
- トリミングはカメラの液晶モニターで確認しながら行ってください。テレビを使用すると、トリミング枠を正しく表示できないことがあります。

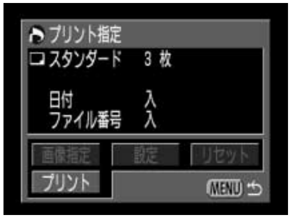
DPOFのプリント設定でプリントする

DPOFのプリント指定内容を、別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリントできます。

1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETを押す

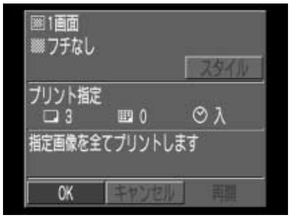
- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39
- プリント指定メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの▲▼または◀▶で[プリント]を選び、SETを押す



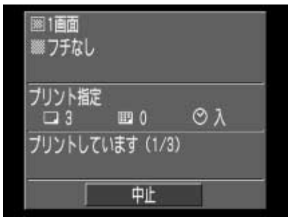
3 必要に応じてプリントスタイルを指定する

- プリントスタイルを指定する ➔ p. 117
- DPOFのプリント指定で、プリントタイプに[インデックス]を選択している画像では、プリントスタイルは指定できません。



4 マルチコントローラーの▲▼または◀▶で[OK]を選び、SETを押す

- プリントが開始され、正常に終了すると再生画面に戻ります。



- 日付をプリントする場合は、手順2の[設定]で[日付]を[入]にします。手順3の[スタイル]では、[日付]の設定はできません(p. 111)。なお、プリントタイプが[インデックス]の場合、手順2で[日付]を[入]に設定しても、日付はプリントされません。
- プリントタイプで[両方]を設定すると、カメラ上では、[日付]、[ファイル番号]ともに[入]の設定ができます。ただし、この場合、[インデックス]プリントには、ファイル番号のみプリントされます。
- プリントタイプが[スタンダード]の場合、ファイル番号を[入]にしてもファイル番号はプリントされません。

- プリントタイプが[インデックス]の場合、ペーパー1 枚にプリントされる画像数は、ペーパーによって異なります。
  ・クレジットカードサイズ ： 20画像
  ・Lサイズ ： 42画像
  ・ポストカードサイズ ： 63画像

プリントを中止するとき

- プリント中にSETを押します。確認の画面が表示されるので、マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押します。
- プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画面に戻ります。

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで、マルチコントローラーの◀▶で[再開]を選び、SETを押します。残りの画像をプリントできます。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  ー 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  ー 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  ー プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
  このような場合は、プリント画面で[OK]を選択すると、1枚目から再プリントできます。
  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます(p.151)。マルチコントローラーの◀▶で[中止]または[再開]を選び、SETを押します。
- エラーの内容によっては、[再開] が表示されないこともあります。その場合は、[中止]を選びます。

カメラダイレクト対応BJプリンタ(別売)でプリント

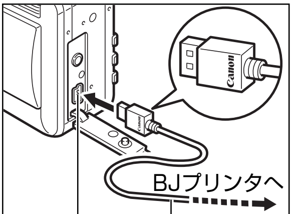
カメラとダイレクトプリント対応のBJプリンタ(別売)とカメラを接続して、撮影した画像を簡単にダイレクトプリントできます。またDPOFのプリント設定でも、プリントできます。

お手持ちのBJプリンタがダイレクトプリントに対応しているかどうか、また接続ケーブルやＢＪプリンタ全般に関することは、ＢＪプリンタに同梱されている使用説明書もあわせてご覧ください。

BJプリンタを接続する

BJプリンタと接続する際には、あらかじめカメラの電源を切っておいてください。

- カメラをプリンタに接続する場合、カメラの電源には、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリント中にバッテリーがなくなると途中でプリントが中止されることもありますので、早めに別のバッテリーを用意することをおすすめします。

1 

ケーブルでカメラとプリンタを接続する

- ケーブルを差し込むときは、「Canon」がカメラの前面になるように差し込んでください。

2

パワー/再生レバーを右へスライドし、カメラの電源を入れる

- プリンタが正しく接続されていると、カメラの液晶モニターに が表示され、パワー/モードインジケーターが緑色に点灯します。



BJプリンタを接続する（つづき）

カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの側面を持って引いてください。

- ペーパーやインクの取り付け方は、プリンタの使用説明書をご覧ください。
- プリンタを接続しているときは、次の操作ができません。
  - ・ 動画再生
  - ・ SET ＋ JUMPボタンを使った言語の設定
- プリンタとの接続を解除すると、液晶モニター左上の が消え、通常の再生モードになります。

プリントする

シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。

1 マルチコントローラーの◀ ▶でプリントしたい画像を表示し、SETを押す

2 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、トリミングの指定をする

- プリント枚数を指定する ➔ p. 126
- プリントスタイルを指定する ➔ p. 126
- トリミング(画像の一部分をプリント)を指定する ➔ p. 128

3 マルチコントローラーの◀ ▶で[プリント]を選び、SETを押す

- JUMPボタンでも[プリント]を選べます。
- プリントが開始され、正常に終了すると再生画面に戻ります。



- 記録形式がRAWの画像や、動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSETを押します。確認の画面が表示されるので、マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押します。
  プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます(p. 152)。エラー内容を解決すると、自動的にプリントを開始します。それでもエラー画面が消えないときは、SETを押してプリントを中止します。
- エラーの内容によっては、[続行]と[中止]が表示されることもあります。
- B J プリンタの操作パネルに、エラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。

プリント枚数を指定する

1 再生画面でSETを押し、マルチコントローラーの▲▼で[枚]を選ぶ



2 マルチコントローラーの◀▶で枚数を指定する

- 1～99まで指定できます。

プリントスタイルを指定する

次の内容を設定できます。

ペーパー		ペーパーサイズを、L判、2L判、はがきサイズ、A4サイズ、カードサイズから選べます。使用できるペーパーについては、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

1 プリント指定画面で、マルチコントローラーの▲▼で[スタイル]を選び、SETを押す



2 マルチコントローラーの▲▼で[ペーパー]、[フチ]、[日付]のいずれかを選ぶ



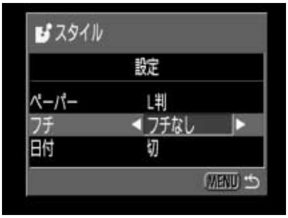
3 マルチコントローラーの◀▶で設定を選び、SETを押す

ペーパー



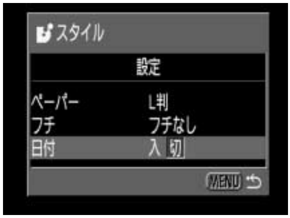
L判または、2L判、はがきサイズ、A4サイズ、カードサイズを選びます。

フチ



[フチなし]または[フチあり]を選びます。

日付



[入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押し、設定を終了する

- [フチなし]を選ぶと、撮影した画像の中央部が大きくプリントされます。このため、画像の上下左右がカットされます。トリミング設定をしていないときは、プリント範囲枠が表示されるので、カットされる部分が確認できます。



プリント範囲枠

- DPOFのプリント指定でプリントする場合、日付は設定できません。日付はDPOFの設定でプリントされます。➔ p. 111
- [フチあり]を選ぶと、撮影した（液晶モニターに表示される）画像とほとんど同じ領域がプリントされます。

画像の一部分をプリント(トリミング)指定する

プリントする範囲を指定できます。

トリミングする前に
プリントスタイル(ペーパー、フチ、日付など)を指定してください。➔ p. 126

1 再生画面でSETを押し、マルチコントローラーの▲▼で[トリミング]を選び、SETを押す



- トリミング枠が画面中央に表示されます。すでにトリミングが設定されている画像の場合は、設定されたトリミング枠が表示されます。

2 トリミングする



トリミング枠の大きさを変更する
- ズームレバーを🔍+側または🔍−側に押します。
- トリミング枠は、最小で表示画面のほぼ半分、最大で表示画面とほぼ同じ大きさまで変更できます。
- トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを🔍−側に押すと、トリミングは解除されます。

トリミング枠の位置を指定する
- マルチコントローラーの▲▼または◀▶でトリミング枠を移動します。

トリミング枠を回転する
- DISPLAYボタンを押すと、トリミング枠を回転し、縦横を変更できます。

3 MENUボタンを押し、設定を終了する



トリミング枠

- トリミングは1画像にのみ設定できます。
- トリミング設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  - 他の画像にトリミング設定をする
  - プリントモードを終了する（カメラの電源を切る、モードを変更する、ケーブルを取り外す）
  - トリミング枠を最大よりも大きくする

- トリミングの枠の形状は、ペーパー、フチの設定で決まります。
- トリミングはカメラの液晶モニターで確認しながら行ってください。テレビを使用すると、トリミング枠を正しく表示できないことがあります。

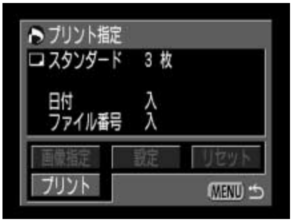
DPOFのプリント設定でプリントする

DPOFのプリント指定内容を、別売のカメラダイレクト対応BJプリンタでプリントできます。

1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETを押す

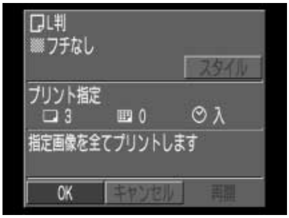
- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39
- プリント指定メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの▲▼または◀▶で[プリント]を選び、SETを押す



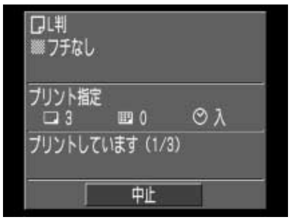
3 必要に応じてプリントスタイルを指定する

- プリントスタイルを指定する ➔ p. 126



4 SETを押す

- プリントが開始され、正常に終了すると再生画面に戻ります。



- 日付をプリントする場合は、手順２の[設定]で[日付]を[入]にします。手順３の[スタイル]では、[日付]の設定はできません(p.111)。なお、プリントタイプが[インデックス]の場合、手順２で[日付]を[入]に設定しても、日付はプリントされません。
- ファイル番号はプリントされません。

プリントを中止するとき

- プリント中の画面でSETを押します。確認の画面が表示されるので、マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押します。
  プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで、マルチコントローラーの◀▶で[再開]を選び、SETを押します。残りの画像をプリントできます。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  ー 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  ー 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  ー プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
  このような場合は、プリント画面で[OK]を選択すると、1枚目から再プリントできます。
  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます(p. 152)。エラー内容を解決すると、自動的にプリントを開始します。
  それでもエラー画面が消えないときは、SETを押してプリントを中止します。
- エラーの内容によっては、[続行]と[中止]が表示されることもあります。
- ＢＪプリンタの操作パネルにもエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。

画像の送信設定（DPOF 送信指定）

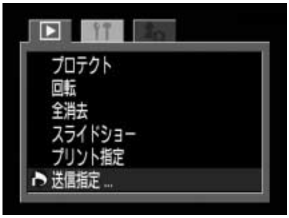
電子メールで送信する画像などを、あらかじめカメラ側で指定しておくことができます。（実際に画像を送信するときは、付属のソフトウェアをご使用ください。）
この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

● DPOF対応の他のカメラで送信指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送りたい画像を選ぶ

画像の指定には、次の2つの方法があります。
・1画像ずつ指定する
・CFカード内のすべての画像を指定する

1 [▶（再生）] メニューから [送信指定] を選んで**SET**を押す



- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 39
- [送信指定]メニューが表示されます。

2 マルチコントローラーの◀▶で [画像指定] を選び、**SET**を押す



3 送信する画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき



- マルチコントローラーの◀▶で画像を選び、▲▼で、指定、指定解除を設定します。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CFカード内のすべての画像を指定するとき



- ボタンを押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えます。
- SETを押した後、マルチコントローラーの▲▼で［全画像指定］を選び、再度SETを押すと、すべての画像が指定されます。（［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます。）
- ［全画像指定］または［全指定解除］を行ったあと、マルチコントローラーの◀▶で特定の画像を選び、▲▼で設定変更できます。

4 MENUボタンを押す

- 送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- 最大998画像まで指定できます。
- 同梱されているソフトウェアでも送信指定ができます。

送信の設定をリセットする

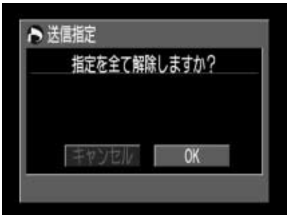
送信指定された画像をすべて解除します。

1 [送信指定]メニューを表示する ➔ p. 132

2 マルチコントローラーの◀▶で[リセット]を選び、**SET**を押す



3 マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、**SET**を押す



メニュー機能一覧

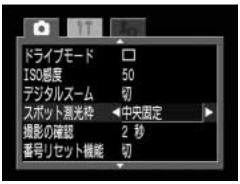
各メニューの設定項目や内容は、次のとおりです。操作方法については、「メニューの選択と設定のしかた(p. 39)」をご覧ください。

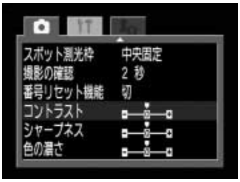
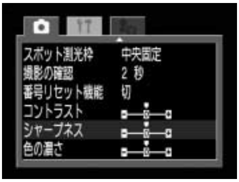
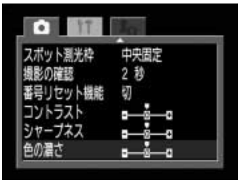
撮影メニュー

＊撮影モードによって表示されない項目もあります。➔ p. 92

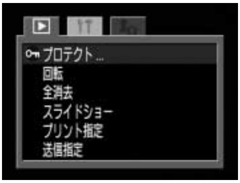
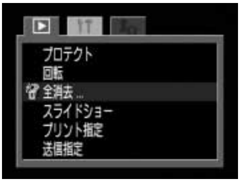
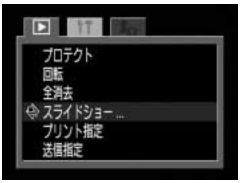
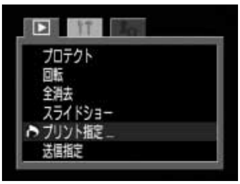
項　目	画　面	内　容	参照先
記録画素数 (🎥 以外)		撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画素数を設定します。 ・**L** ラージ PowerShot S30(2048×1536画素) PowerShot S40(2272×1704画素) ・**M 1** ミドル1(1600×1200画素) ・**M 2** ミドル2(1024×768画素) ・**S** スモール (640×480画素)	p. 63
記録画素数 (🎥)		・[320](320×240画素) ・[160](160×120画素)	p. 63
圧縮率		撮影した画像をCFカードに記録するときの圧縮率を設定します。 ・S スーパーファイン ・ファイン ・ノーマル	p. 63
記録形式		撮影した画像をCFカードに記録するときの記録形式を設定します。 ・JPEG ・RAW	p. 66

撮影メニュー(つづき)

項　目	画　面	内　容	参照先
ドライブモード		シングル撮影、連続撮影方式、セルフタイマーの時間を選びます。セルフタイマーで撮影するときはシングル撮影になります。 ・シングル撮影 ・通常連続撮影 ・高速連続撮影 ・10秒セルフタイマー ・2秒セルフタイマー	p. 61
ISO感度		撮影感度を設定します。 (S30)　(S40) ・50　・50 ・100　・100 ・200　・200 ・400　・400 ・800　・AUTO ・AUTO	p. 89
デジタルズーム		光学ズームと合わせて、拡大します。 ・切 ・入	p. 62
スポット測光枠		測光方式で[スポット測光]を選んだときに、測光を中央枠内に固定するか、選択されているAF枠内にするかを選びます。 ・中央固定 ・AF枠連動	p. 84
撮影の確認		撮影してシャッターボタンを離したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 ・切 ・2秒 ・10秒	p. 48

項　目	画　面	内　容	参照先
番号リセット機能		ファイル番号の付け方を設定します。 ・入 ・切	p. 91
コントラスト		コントラストを設定します。 ・－ ・ 0 ・＋	p. 89
シャープネス		シャープネスを設定します。 ・－ ・0 ・＋	p. 89
色の濃さ		色の濃さを設定します。 ・－ ・0 ・＋	p. 89

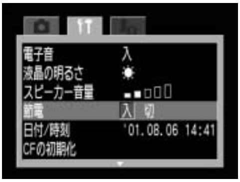
再生メニュー

項　目	画　面	内　容	参照先
プロテクト		消去できないようプロテクトを設定します。	p. 105
回転		時計方向に90度、270度に回転して表示します。	p. 99
全消去		CFカードに記録されている画像をすべて消去します。（プロテクトされている画像を除く）	p. 107
スライドショー		記録した画像を自動再生します。	p. 101
プリント指定		画像をDPOF対応のプリンターまたはラボプリントサービスでプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	p. 109
送信指定		お使いのメールソフトで送信する画像を、あらかじめカメラで指定します。	p. 132

設定メニュー

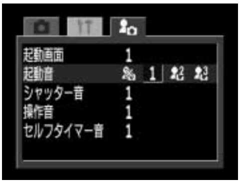
項　目	画　面	内　容	参照先
電子音		シャッターボタンを押したときや、メニュー操作をしたときに、電子音を鳴らすかどうかを設定します。 詳しくは「(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について(p. 142)」をご覧ください。 ・入 ・切 ただし、エラー時の警告音は、[切]にしても鳴ります。	p. 35
液晶の明るさ		液晶モニターの明るさを設定します。 ・(標準) ・(明るい)	p. 31
スピーカー音量 （撮影時）		シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。 ・(切) ・(1) ・(2) ・(3) ・(4) ・(5)	p. 35
再生音量 （再生時）		動画再生時(注)とカメラ起動時の音量を調節します。 (注)動画再生時に、このメニューで音量を設定し直したときは、いったん電源を切ってから再度電源を入れてください。設定した内容が有効になります。 ・(切) ・(1) ・(2) ・(3) ・(4) ・(5)	p. 29/ 98/ 100

設定メニュー(つづき)

項　目	画　面	内　容	参照先
節電		一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 ・入 ・切	p. 29
日付/時刻		日付、時刻、日付スタイルを設定します。	p. 25
CFの初期化		CFカードを初期化します。	p. 108
言語		液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English　・Italiano ・Deutsch　・Norsk ・Français　・Svenska ・Nederland　・Español ・Dansk　・汉语 ・Suomi　・日本語 画像の再生時に、**SET**を押しながら**JUMP**ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。	p. 26
ビデオ出力方式		ビデオ出力方式を設定します。 ・NTSC ・PAL	p. 144

マイカメラメニュー

このカメラでは、起動画面、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を選べます。また各項目の[ ]、[ ]には、同梱されているソフトウェアを使って、お好きなコンテンツを登録できます。またCanon Image Gateway から、同梱のソフトウェアを通じて、コンテンツをダウンロードし、登録することもできます。詳しくは、同梱のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

項　目	画　面	内　容	参照先
起動画面		電源を入れたときの起動画面を選びます。 1	p. 42
起動音		電源を入れたときの起動音を選びます。 詳しくは「[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について(p. 142)」をご覧ください。 1	p. 42
シャッター音		シャッターを全押ししたときの音を選びます。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。 詳しくは「[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について(p. 142)」をご覧ください。 1	p. 42

マイカメラメニュー（つづき）

項　目	画　面	内　容	参照先
操作音		シャッター以外のボタンとマルチコントローラーを操作したときの音を選びます。 詳しくは「[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について(下記)」をご覧ください。 1 2 3	p. 42
セルフタイマー音		セルフタイマー撮影で2秒前をお知らせする音を選びます。 詳しくは「[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について(下記)」をご覧ください。 1 2 3	p. 42

[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について

- 起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を消すときは、[電子音]を[切]にしてから、音の各設定を個別に[切]にします。[電子音]が[入]になっていると、音の各設定が[切]になっていても、電子音が鳴ります。
  詳しくは、下の表をご覧ください。

		[(設定)]メニューの[電子音]の設定	
		[入]	[切]
[(マイカメラ)]メニューの音の各項目の設定 ([起動音]/[シャッター音]/[操作音]/[セルフタイマー音])	[ ]	○[電子音]	×
	[1]	○[1]	○[1]
	[2]	○[2]	○[2]
	[3]	○[3]	○[3]

○ ： [ ]の音が鳴る
× ： 鳴らない

すべての設定を初期設定に戻す

[日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定をすべて初期設定に戻します。

1 カメラの電源を入れる

- 撮影モード、再生モードのどちらでも構いません。

2 MENUボタンを5秒以上押しつづける

- 液晶モニターに、「初期設定に戻しますか?」のメッセージが表示されます。



3 マルチコントローラーの◀▶で[OK]を選び、SETを押す

- 初期化中は右のような画面が表示され、初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは、[キャンセル]を選びます。

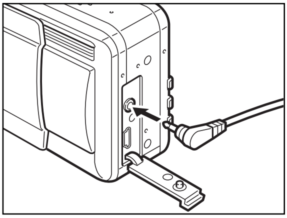


テレビを使って撮影/再生する

同梱のAVケーブル AVC-DC100を使用すると、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。

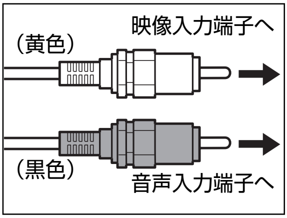
1 カメラの電源を切る ➔ p. 28、30

2



カメラのA/V OUT端子にAVケーブルを接続する

3



テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 撮影モードまたは再生モードでカメラの電源を入れる ➔ p. 28

- 画像がテレビに表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、DISPLAY ボタンを押します。

- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- ビデオ出力方式は、初期設定では、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください (p. 140)。適切なビデオ出力方式を設定しないと、画像が正しく表示されません。
- AVケーブルをテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- では使用できません。

カメラのお手入れ

カメラやレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

カメラ	：やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。 ● カメラやレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください）にご相談ください。
ファインダー	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。
液晶モニター	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。 ● 液晶モニターの表面を強くこすったり、押したりすると、表面にキズがつきますので、ご注意ください。

● 絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

故障かなと思ったら

現　象	原　因	対　処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	●電源を入れてください。 ➡「電源を入れる/切る（p. 28）」
	CFカードスロット/バッテリーカバーが開いています。	●CFカードスロット/バッテリーカバーをしっかり閉めてください。
	バッテリーの電圧が足りません。	●バッテリーを十分に充電してカメラに入れてください。 ●家庭用電源を使用してください。
	カメラとバッテリーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。
撮影ができない	再生モード、またはコンピューター接続/プリンター接続モードになっています。	●撮影モードに切り換えてください。 ➡「撮影/再生を切り換える（p. 30）」
	ストロボが充電中です。 （橙色のインジケーター点滅）	●充電が完了すると、橙色のインジケーターが点灯します。シャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	●新しいCFカードを入れてください。 ●必要であれば、CFカードに記録されている画像をコンピューターに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
	CFカードが正しくフォーマットされていません。	●CFカードを初期化してください。➡「CFカードを初期化する（p. 108）」参照 ●CFカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様ご相談窓口にお問い合わせください。
レンズが出たままで収納されない	電源を入れたまま、CFカードスロット/バッテリーカバーを開けようとしました。	●CFカードスロット/バッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。
	CFカードへの記録中に、CFカードスロット/バッテリーカバーを開けようとしました。（警告音が鳴ります。）	●CFカードスロット/バッテリーカバーを閉じた後、レンズカバーを閉じてください。
	撮影モードから再生モードに切り換えました。	●この場合はレンズは収納されません。レンズを収納するときは、レンズカバーを閉じてください。

現　象	原　因	対　処
バッテリーの消耗が早い	フル充電の状態で、長期間（1年くらい）放置したために、バッテリーの容量が低下しています。	● 新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーが充電できない	バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーとバッテリーチャージャーの接触不良です。	● バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。 ● バッテリーチャージャーのコネクターをしっかりと差し込んでください。
画像がぼやけている ピントがあまい	カメラが動いています。	● シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ● シャッター速度が遅く (手ブレ警告) が表示されたときは、三脚をお使いください。
	AF補助光投光部が何かで覆われているため、オートフォーカスが機能していません。	● AF補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	● 被写体から80cm以上離してください。 ● 被写体から10cm（ワイド端)/30cm（テレ端）〜80cmの距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	● ストロボをオンにしてください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	● 露出補正値をプラス側に設定してください。 ● AEロックまたはスポット測光機能をお使いください。 ➡「露出を固定して撮る（p. 81）」「測光方式を切り換えて撮る（p. 84）」参照
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	● ストロボをお使いになるときは、ストロボ到達範囲内に被写体を置いてください。 感度オート時：35cm〜4.8m（ワイド端）/3.0m（テレ端） ISO100相当時：55cm〜4.0m（ワイド端）/2.5m（テレ端） ● ISO感度を上げて撮影してください。 ➡「好みの画質で撮る（p. 89）」参照

現　象	原　因	対　処
撮影した画像の被写体が明るすぎる	被写体が近すぎます。	● ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正（p. 80）でストロボの発光量を調節してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	● 露出補正値をマイナス側に設定してください。 ● スポット測光やAEロック機能を使用してください。 ➡「露出を固定して撮る(p. 81)」「測光方式を切り換えて撮る(p. 84)」参照
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	● 被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボがオンになっています。	● ストロボをオートまたはオフにしてください。
ストロボが発光しない	ストロボがオフになっています。	● ストロボをオートまたはオンにしてください。
テレビに出力できない	ビデオ出力方式が［PAL］方式になっています。	● ビデオ出力方式を［NTSC］にしてください。 ➡「設定メニュー（p. 140）」参照
ズームの操作ができない	動画撮影中に、ズームレバーを操作しました。	● 動画を撮影する前に、ズーム操作をしてください。

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

初期設定に戻しますか？	：カメラやメニューの設定を初期設定に戻しますか？
初期化中	：カメラやメニューの設定を初期設定に戻しています。
処理中...	：撮影した画像をCFカードに記録しています。 再生モードを起動中です。
CFカードがありません。	：CFカードがカメラに入っていないときに、撮影や再生をしようとしました。
記録できません。	：CFカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
CFカードが異常です。	：CFカードに異常があります。
CFカードがいっぱいです。	：CFカードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上画像を記録できません。または、これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作成できません。	：カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。撮影メニューから[番号リセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像をコンピューターに取り込んだ後、CFカードを初期化してください(p. 104)。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
バッテリーを交換してください。	：バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
画像がありません。	：CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます。	：3200×2400画素より大きなサイズの画像を再生しようとしました。
互換性のないJPEGです。	：互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています。	：データの破壊されている画像を再生しようとしました。

メッセージ一覧(つづき)

RAW	：異なる形式のRAW画像を再生しようとしました。
拡大できない画像です。	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を拡大しようとしました。
回転できない画像です。	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を回転しようとしました。
認識できない画像です。	：特殊なフォーマット(他社カメラ特有の記録フォーマットなど)で撮影した画像を再生しようとしました。
不明な音声データがあります。	：録音済みの音声メモの形式が正しくないので、この画像に追加録音できません。
プロテクトされています。	：プロテクトされている画像を削除しようとしました。
指定が多すぎます。	：プリント指定またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です。	：JPEG以外のファイルをプリント指定しようとしました。
指定完了できませんでした。	：プリント指定またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。
編集できません。	：スライドショー指定ファイルが壊れています。

別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリント中に、カメラの液晶モニターに表示されるメッセージには、以下のものがあります。(プリンターによって、表示されないメッセージもあります。)

ペーパーがありません。	：ペーパーカセットが正しく入っていないか、ペーパーカセット内にペーパーがありません。または給紙動作が正しく行われていません。
インクがありません。	：インクカセットが入っていません。またはインクカセットのインクがありません。

指定外のペーパーです。	：プリントできないサイズのペーパーがプリンターに取り付けられています。
指定外のインクです。	：プリントできないインクカセットがプリンターに取り付けられています。
インクカセットが異常です。	：インクカセットに異常があります。
ペーパーとインクが不一致です。	：ペーパーとインクの組み合わせが正しくありません。
ペーパーが詰まりました。	：プリント中にペーパーが詰まりました。
ペーパーが変更されています。	：プリントスタイルメニュー表示時からプリントを開始するまでの間にペーパーサイズが変わりました。
プリンターバッテリー切れです。	：プリンターの電池がありません。
通信エラー	：通信中にエラーが発生しました。
トリミングできない画像です。	：別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像をトリミングしようとしました。
トリミングの再設定が必要です。	：トリミング設定時と異なるスタイルでプリントしようとしました。
プリントできない画像です。	：別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、または、コンピューターに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像がXX枚ありました。	：別のカメラで撮影した画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をXX枚、DPOF設定でプリントしようとしました。

メッセージ一覧（つづき）

カメラダイレクト対応BJプリンタに接続しているときは、以下のメッセージが表示されることがあります。

> BJプリンタに表示されるエラー番号を確認し、BJプリンタの使用説明書も合わせてご覧ください。

プリンターは使用中です。	：	コンピューター、またはプリンターに差し込まれたメモリーカードからプリントしています。 プリントが終了すると自動的に、カメラ内の画像のプリントを開始します。
プリンターは準備中です。	：	プリンターを準備しています。準備が終了すると、自動的にプリントを開始します。
プリントヘッド未装着	：	プリントヘッドが取り付けられていません。
プリンターカバーが開いています。	：	プリンターカバーを閉じてください。
ペーパーの種類が違います。	：	プリンターで使用できないペーパーを選んでいます。プリントスタイルで、使用できるペーパーを選んでください。
紙間レバー位置が不正です。	：	紙間選択レバー位置を正しい位置にしてください。
インクが残りわずかです。	：	そろそろインクタンクの交換時期です。新しいインクタンクをご用意ください。エラー画面で[続行]を選ぶと、プリントを再開します。
廃インクタンクが満杯です。	：	BJプリンタのリセットボタンを押すとプリントを再開しますが、お早めにお買い上げの販売店または修理受付窓口（BJプリンタに付属の一覧を参照）に廃インクタンクの交換を依頼してください。
プリンタートラブル発生	：	プリンターの電源を入れ直してください。それでもエラーが表示されるときは、BJプリンタの使用説明書に記載されている最寄りのサービスセンターにご相談ください。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot S30 / PowerShot S40

カメラ部有効画素数	S30	：	約 320 万画素
	S40	：	約 400 万画素
撮像素子	S30	：	1/1.8 型 CCD（総画素数 約 330 万画素）
	S40	：	1/1.8 型 CCD（総画素数 約 410 万画素）
レンズ		：	7.1（W）- 21.3（T）mm（35mm フィルム換算 35 - 105 mm） F 2.8（W）- 4.9（T）
デジタルズーム	S30	：	最大約 3.2 倍（光学ズームと合わせて最大約 10 倍のデジタルズームが可能）
	S40	：	最大約 3.6 倍（光学ズームと合わせて最大約 11 倍のデジタルズームが可能）
光学ファインダー		：	一次結像式実像光学ズームファインダー、視野率約 82%
液晶モニター		：	1.8 型低温ポリシリコン TFT 液晶カラーモニター、視野率 100%
オートフォーカス		：	TTL 3 点 AiAF（1 点測距可能） フォーカスロックおよびマニュアルフォーカス可能
撮影距離		：	通常撮影：80 cm ～ ∞ マクロ撮影：10cm（W）/ 30cm（T） ～ 80cm ：マニュアルフォーカス撮影：10cm（W）/ 30cm（T） ～ ∞
シャッター		：	メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッター速度		：	15 ～ 1/1500 秒 1.3 秒以上はシャッター速度優先モードまたはマニュアルモード撮影時 1.3 秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式		：	評価測光 / 中央部重点平均測光 / スポット測光（中央固定 / AF 枠連動）
露出制御方式		：	プログラム AE / シャッター速度優先 AE / 絞り優先 AE / マニュアル露出　AE ロック可能
露出補正		：	± 2 段（1/3 段ステップ）　AEB 撮影可能
感度		：	オート / ISO 50 / 100 / 200 / 400 / 800 相当 （オート時は ISO 50 ～ 150 相当で自動設定。ISO 800 は、S30 のみ設定可能。）
ホワイト バランス		：	TTL オートホワイトバランス / プリセットホワイトバランス（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H/ ストロボ）/ マニュアルホワイトバランス
ストロボ		：	赤目緩和オート / オート / 赤目緩和オン / オン / オフ

主な仕様（つづき）

ストロボ連動範囲	:	35cm～4.8 m（W）/ 35cm～3.0 m（T） （感度オート時） 55cm～4.0 m（W）/ 55cm～2.5 m（T） （ISO 100 相当時）
ストロボ調光補正	:	± 2 段（1/3 段ステップ）、FE ロック可能
撮影モード	:	オート クリエイティブゾーン：プログラム / シャッター速度優先 / 絞り優先 / マニュアル イメージゾーン：ポートレート / 風景 / 夜景 / 高速シャッター / スローシャッター / 色効果 / スティッチアシスト / 動画
連続撮影	:	高速連続撮影：約 3 画像 / 秒（S30）、約 2.5 画像 / 秒（S40） 通常連続撮影：約 2 画像 / 秒（S30）、約 1.5 画像 / 秒（S40） （ラージ / ファインモード、液晶モニター非表示のとき）
セルフタイマー	:	約 2 秒 / 約 10 秒後に撮影
パソコン接続撮影	:	USB 接続時、RemoteCapture（同梱のソフトウェア）で撮影可能
記録媒体	:	コンパクトフラッシュカード（Type I および Type II）
画像ファイルフォーマット	:	DCF*1　DPOF 対応
画像記録フォーマット（静止画）	:	JPEG (Exif 2.2)*2/ RAW
画像記録フォーマット（動画）	:	AVI（画像データ：Motion JPEG / 音声データ：WAVE（モノラル））
JPEG 圧縮率切り換え	:	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画）	:	ラージ　：(S30)：2048 × 1536 画素 　　　　　(S40)：2272 × 1704 画素 ミドル 1　　：1600 × 1200 画素 ミドル 2　　：1024 × 768 画素 スモール　　：640 × 480 画素
記録画素数（動画）	:	320 × 240 画素 (約 30 秒)* 160 × 120 画素 (約 120 秒)* 約 15 フレーム / 秒 *(　) 内は 1 回の撮影での最長記録時間です。
再生モード	:	シングル再生（ヒストグラム表示可能）/ インデックス再生（サムネイル 9 画像） 拡大再生（液晶モニター上で拡大可能。S30：約 2.5 倍または約 5 倍　S40：約 3 倍または約 6 倍） スライドショー 音声メモ（最長約 60 秒まで記録可能） 専用プリンター（CP-100、CP-10）、BJ プリンタへの画像出力（ダイレクトプリント）
表示言語	:	English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語

マイカメラ(カスタマイズ)機能	：	起動画面 / 起動音 / シャッター音 / 操作音 / セルフタイマー音の設定が可能。同梱のソフトウェアやオンラインフォトサービス「Canon Image Gateway」から、これらのコンテンツをダウンロードしても設定可能
Canon Image Gateway 対応機能	：	同梱のソフトウェアを使って、Canon Image Gatewayの会員登録、画像のアップロード、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロードが可能
インターフェース	：	USB 映像 / 音声出力端子（NTSCまたはPAL切換可能、モノラル音声）
電源	：	1. 充電式リチウムイオン電池（NB-2L）（同梱） 2. AC アダプターキット（ACK700）（別売）
動作温度	：	0 ～ 40℃
湿度	：	10 ～ 90%
大きさ	：	112（幅）x 58（高さ）x 42（奥行き）mm（突起部を除く）
質量	：	約 260 g（本体のみ）

(W)：ワイド端　(T)：テレ端

*1　DCFは(社)電子情報技術産業協会(JEITA)で主として、DSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

*2　このデジタルカメラは、Exif 2.2(愛称「Exif Print」)に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

バッテリーパック NB-2L

形式	：	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：	DC 7.4 V
公称容量	：	570 mAh
充放電	：	約 300 回
使用温度	：	0 ～ 40 ℃
大きさ	：	33.3 x 45.2 x 16.2 mm
質量	：	約 40 g

バッテリーチャージャー CB-2LT

定格入力	：	AC100 ～ 240 V（50/60 Hz） 14 VA（100 V）～ 19 VA（240 V）
定格出力	：	DC 8.4 V / 0.5 A
使用温度	：	0 ～ 40 ℃
大きさ	：	91 x 29.5 x 56 mm
質量	：	約 86 g

コンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）

定格入力	：	AC100 ～ 240 V（50/60 Hz） 30 VA（100 V）～ 40 VA（240 V）
定格出力	：	DC 7.4 V / 2.0 A
使用温度	：	0 ～ 40 ℃
大きさ	：	112 x 29 x 45 mm（本体のみ）
質量	：	約 186 g

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	：	Type I
大きさ	：	36.4 x 42.8 x 3.3 mm
質量	：	約 10 g

索引

記号 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

補修用性能部品について
保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後７年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

アクセサリーについて
本デジタルカメラは、キヤノン純正のデジタルカメラ用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。他社製のアクセサリーを組み合わせてお使いになられたことが原因で生じた事故や故障については、弊社では保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。